

Ⅰ 第2次かすがい市民文化振興プランの概要

(I) 基本理念と基本目標

I 基本理念

この第2次文化振興プランでは、「文化・スポーツ都市」宣言の趣旨を受け、また文化振興基本条例で定めた基本理念を実現するため、本市が目指すべき10年後の姿として計画に掲げる理念を次のとおりとします。

世代を越えて響き合う 文化創造のまち春日井

II 基本目標

計画に掲げる理念を達成するために、次の3つの基本目標を定めます。

基本目標1 参加と体験による文化が生まれる環境づくり

基本目標2 特色ある「春日井文化」の継承・創造

基本目標3 文化を通じた連携のまちづくり

(2) 施策の体系

理念	基本目標		施策	
世代を越えて響き合う 文化創造のまち春日井	基本目標1	参加と体験による文化が 生まれる環境づくり	施策①	幅広い鑑賞機会・文化活動機会の提供
	基本目標2	特色ある「春日井文化」 の継承・創造	施策⑥	特色ある文化の推進
	基本目標3	文化を通じた連携のまち づくり	施策⑧	分野を超えた連携の推進
	施策②	次世代の文化活動を担う人材の育成	施策③	知りたい人に届く文化情報発信
	施策④	市民による文化活動支援の推進	施策⑤	文化が育つ拠点施設の充実
	施策⑦	文化財・伝統文化の保存・継承・活用	施策⑨	文化による地域の活性化

2 第2次かすがい市民文化振興プラン 令和元年度進捗状況評価票

令和2年9月1日開催の令和2年度第1回春日井市文化振興審議会において
春日井市(文化スポーツ部文化・生涯学習課)より令和元年度の進捗状況を報告し、
文化振興審議会の点検・評価を受けたものです。

< 凡例 >

各事業の達成度(自己評価)については、次の5段階で評価を行った。

- A 実施し、計画以上の成果が得られた。
- B 実施し、計画程度の成果が得られた。
- C 実施したが、計画どおりの成果は得られなかった。
- D 検討したが、実施に至らなかった。
- E 実施・検討に至らなかった。

(1) 施策ごとの評価

基本目標1 参加と体験による文化が生まれる環境づくり

施策① 幅広い鑑賞機会・文化活動機会の提供

施策ごとの事業の成果

(1) 多彩な文化芸術のより身近な鑑賞機会の提供

ア 地域に身近な会場での鑑賞・交流機会の提供

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
まちかどコンサート 【文化・生涯学習課】 <単年度事業>	コンサートグループ「花の詩」と協働し、市内各所でコンサートを開催	市民病院ほかでコンサートを12回開催 鑑賞者2,153人、出演者延べ80人	なし (市制75周年記念事業のため)	—	—
あ〜とふるマイタウン(芸術家等派遣事業) 【文化・生涯学習課】	書、伝統芸能に関する芸術家を公民館や学校等の身近な施設に派遣 ※音楽分野は、令和元年度より文化財団に移管し、「かすがいどこでもアート・ドア」事業で実施。	実施プログラム9、実施回数21回(前年度比2回減) <内訳> 音楽:4プログラム12回 書(篆刻を含む):3プログラム3回 伝統芸能(落語・日本舞踊):2プログラム6回	実施プログラム5、実施回数12回(前年度比9回減) <内訳> 書(篆刻を含む):3プログラム6回(前年度比3回増) 伝統芸能(落語・日本舞踊):2プログラム6回(増減なし)	保育園や小学校、地区社会福祉協議会など26団体から応募があり、市民に鑑賞・体験の機会を提供することができた。 書を体験した園児から「もっと書きたい」との声があがっていた。	B 文化財団への移管は、事業効果を上げるために妥当な判断であると考えている。

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
かすがいどこでもアート・ドア(アウトリーチ事業) 【かすがい市民文化財団】	学校や保育園、福祉施設などにアーティストを派遣し、特別授業やコンサートを実施 ※「あ〜とふるマイタウン事業」のうち、音楽分野について、令和元年度より市より移管を受けた。	派遣アーティスト5名、実施回数12回(前年度比2回減) <内訳> 俳優・演出家3回、文芸(歌人)3回、美術家4回、舞踊(ダンサー)1回、音楽(ギター)1回	派遣アーティスト7組19名、実施回数15回(前年度比3回増) <内訳> 音楽(①三味線2回、②サクソフォン・打楽器3回、③フルート・オーボエ・ピアノ2回、④クラリネット・サクソフォン・ピアノ2回、⑤マリンバ・パーカッション・ピアノ2回、⑥ギター2回)、ダンス2回	文化財団のミッションに基づく普及啓発事業の柱として実施し、幼児や高齢者など交通手段が限られる人々に芸術を身近で感じられる機会を提供することができた。 文芸と美術分野については、アウトリーチからワークショップへ切り替えたため、地域に身近な会場での機会提供は減少した。	B 市内で活動する若手音楽家5組を派遣しており、アーティストの経験値を上げることができた点も成果と考えている。
ふれあいセンター、ハーモニー春日井等でのコンサート 【文化・生涯学習課】	地元で活躍する音楽家を招き、市民が気軽に音楽を楽しむことができるコンサートを開催	・西部ふれあいセンター(フレッシュコンサート、七夕コンサート、クリスマスコンサート)3回 ・ハーモニー春日井(ウインターコンサート)1回	・西部ふれあいセンター(フレッシュコンサート、七夕コンサート、クリスマスコンサート)3回(増減なし) ・ハーモニー春日井(ウインターコンサート)1回(増減なし)	地域住民を中心とした市民に、身近で文化芸術を鑑賞できる機会を提供することができた。 出演者と相談し、地域住民の特性を踏まえた演奏プログラムになるよう工夫した。	B 鑑賞者アンケートの満足度も高く、工夫の成果と考えている。

イ 近隣美術館等との連携の推進

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
かすがい熟年大学 【文化・生涯学習課】	高齢者が健康で生きがいのある生活を送ることができるよう、学習の場を提供	熟年大学5コースのうち、芸術文化コースで県内美術館の学芸員に講師を依頼 県内美術館の展覧会の内容に合わせた講義を実施 ①碧南市藤井達吉現代美術館館長、②徳川美術館学芸部長、③名古屋造形大学特任教授（愛知県美術館「至上の印象派展」）	熟年大学5コースのうち、芸術文化コースで県内や東濃地域の美術館の学芸員に講師を依頼 県内美術館の展覧会の内容に合わせた講義を実施 ①名古屋造形大学特任教授（豊田市美術館「クリムト展」）②岐阜県現代陶芸美術館学芸員	近隣美術館の展示内容を紹介することで、実際に美術館に足を運ぶことを促し、美術作品鑑賞へ繋げる機会を創出することができた。	B 初めて岐阜県内の美術館からも講師を迎えたが、受講者からも好評であり、成果があったと考えている。

ウ 文化芸術強調月間(仮称)の創設

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
該当なし 【文化・生涯学習課】		平成30年度は市制75周年記念事業が実施されていたため、文化芸術強調月間の創設は検討に至らなかった。	文化芸術強調月間の創設を検討したが、気候の良い時期には既に多くの文化芸術関係の催事が実施されている現状で強調月間を創設しても、その効果は薄いと判断し、強調月間の創設は行わなかった。	—	D 文化芸術協調月間創設の意義については、引き続き検討していく。

エ 幅広い分野の文化芸術を鑑賞・体験する機会の提供

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
市民美術展覧会 【文化・生涯学習課(かすがい市民文化財団に事業委託)】	市民が制作した美術作品(日本画・洋画・書・彫塑工芸・写真)の発表と鑑賞の場を提供	第67回展8月25日(土)～9月2日(日) 出品数746点(前年度比47点減)、鑑賞者11,384人(前年度比324人増) 会場:市役所10～12階、文化フォーラム春日井 出品資格:市内在住または在勤・在学の高校生以上(出品無料)	第68回展8月17日(土)～8月25日(日) 出品数703点(前年度比43点減)、鑑賞者10,035人(前年度比1,349人減) 会場:変更なし 出品資格:変更なし	審査員解説を行うことで、出品者の励みとなり、また鑑賞のサポートとするなど、美術作品の発表・鑑賞の機会を提供することができた。 他市の美術展と比較し、「出品数・作品レベルとも高い」と審査会員より評価を受けている。	B ただし、出品数が減少しており、対応策の検討が必要と考えている。
市民第九演奏会 【文化・生涯学習課(実行委員会に事業委託<事務局:中部大学>)】	合唱及び演奏を行う市民に練習の場と発表の場を提供し、市民手作りの演奏会を開催	2018春日井市民第九演奏会12月2日(日) 出演者328人(指揮者・ソリスト5人、交響楽団80人、合唱団214人、賛助出演29人)(前年度比3人増)、入場者875人(前年度比85人増)	2019春日井市民第九演奏会12月8日(日) 出演者308人(指揮者・ソリスト5人、交響楽団81人、合唱団180人、賛助出演42人)(前年度比20人減)、入場者839人(前年度比36人減)	合唱参加者には6か月間、22回の練習機会を提供するなど、出演者と鑑賞者に芸術を楽しむ機会を提供することができた。 児童合唱団の賛助出演を得て、出演者の世代間交流を促すことができた。	B ただし、合唱参加者が減少しており、新規参加者を呼込む方策が必要と考えている。

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
短詩型文学祭 【文化・生涯学習課(かすがい市民文化財団に事業委託)】	短歌、俳句、川柳、狂俳(一般の部のみ)、詩の作品を公募し、入選作品を掲載した作品集を作成。作品展では特別賞受賞作品等を展示	第38回短詩型文学祭作品展 1月26日(土)～2月11日(月・祝) 出品数:一般の部(高校生以上)733点、小・中学生の部22,713点、計23,446点(前年度比514点増)、鑑賞者2,480人(前年度比1,543人減) 会場:文化フォーラム春日井 出品資格:市内在住または在勤・在学(出品無料)	第39回短詩型文学祭作品展 1月25日(土)～2月9日(日) 出品数:一般の部(高校生以上)764点、小・中学生の部24,801点、計25,565点(前年度比2,119点増)、鑑賞者3,830人(前年度比1,350人増) 会場:変更なし 出品資格:変更なし	表彰式では、市長賞受賞者のスピーチもあり、鑑賞者の共感を呼ぶ機会となっている。幅広い鑑賞者があり、文芸作品の発表・鑑賞の機会を提供することができた。 平成30年度は市民会館改修工事に開催時期が重なり鑑賞者が減少したが、令和元年度は回復させることができた。	B ただし、認知度が高くないので、より多くの市民に知っていただくための方策が必要と考えている。

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
小野道風公奉賛全国書道展覧会(道風展) 【文化・生涯学習課(運営委員会に事業委託<事務局:かすがい市民文化財団>)】	書作品を全国から公募し、春日井市で生まれたと伝えられる小野道風の偉業を顕彰するとともに、展覧会を開催	第70回展10月28日(日)～11月4日(日) 出品数:一般部340点、学生部(高校生以下)5,981点、計6,321点(前年度比178点減)、鑑賞者:5,017人(前年度比162人減) 会場:市役所10～12階、文化フォーラム春日井・ギャラリー、道風記念館、愛知県美術館ギャラリー、グルッポふじとう、西部ふれあいセンター、庁舎 出品資格:制限なし(出品料有料)	第71回展10月27日(日)～11月4日(月・休) 出品数:一般部289点、学生部(高校生以下)5,630点、計5,919点(前年度比402点減)、鑑賞者:4,195人(前年度比882人減)、新たにインターネット上でVR展を実施:1,037アクセス 会場:名古屋展(愛知県美術館ギャラリー)を廃止、春日井駅(学生半紙の部特別賞受賞作品)<新規> 出品資格・出品料:変更なし	出品案内を全国の高校・大学、書関連美術館に配布するなど「書のまち春日井」を全国発信するとともに、高いレベルの作品が数多く寄せられ、書道文化の振興を図ることができた。 鑑賞者減少対策もあり、新たにVR展を実施。遠方の出品者など来場しづらい方にも鑑賞機会を提供することができた。 市の玄関口であるJR春日井駅で展示を行うことで、鑑賞機会の提供と共に「書のまち春日井」をPRすることができた。	B ただし、出品数が減少傾向にあるので、新規出品者を呼込む方策が必要と考えている。

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
自主文化事業 (鑑賞系事業) 【かすがい市民文化財団】	幅広く、質の高い魅力的な事業を実施し、年齢や性別、社会的状況等に関わらず誰もが芸術を鑑賞できる機会を提供	舞台系:松竹大歌舞伎 1878人、アラジンと魔法のランプ 1,575人、南野陽子&葛西聖司 伝統芸能の魅力発見! 479人、フォレスタコンサート 963人、山下洋輔スペシャル・ビッグバンド・コンサート 792人、柳家小三治独演会 977人、花形狂言2018真夏の狂言大作戦!421人、こまつ座「母と暮せば」462人、神田松之丞独演会190人、人形劇団むずび座「父と暮らせば」155人 美術系:西本喜美子写真展 3,598人、いのまたむつみ展 2,778人、歌人・鈴掛真短歌展 835人	舞台系:生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会 1,888人、松竹大歌舞伎 1,940人、有門正太郎プレゼンツ アリプレ版ロミオとジュリエット 248人、ミュージカル「忍たま乱太郎」 2,815人、中部フィル春日井特別演奏会 658人、第29回日本舞踊鑑賞会 351人、首藤康之×CAVA レニングラード・ホテル 267人、KAKUTAのとびだす童話「ねこはしる」 259人、入船亭扇辰独演会 186人、石井正則～Sound of Story～197人、和装ハーピスト綾 和を愛でる114人 美術系:日ペンの美子ちゃん原画展 1,846人、一条ゆかり展 2,052人、歌人・鈴掛真×名古屋学芸大協働プロジェクト展 842人	ジャンルの偏りなく、幅広い芸術文化事業を展開し、多くの鑑賞者を得ることができた。また、将来の鑑賞人口開拓策にも積極的に取り組み、世代の網羅も進めることができた。 かすがい市民文化財団制作で、平成18年度から全国展開してきた 生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会。100回記念公演となった今回は、春日井市にゆかりのある若手ピアニスト河尻広之氏をソリストに迎えた。ピアノ協奏曲の迫力ある演奏が大変好評であり、地元出身の音楽家の活動を広く知ってもらうことができた。	A 自主事業は、入場料のほか、市からの補助金や、文化庁・財団法人等からの助成金、個人・企業からの協賛金等で支出を賄っている。 令和元年度は、自主財源比率(入場料+助成金+協賛金/支出)が約70%と高水準を保つことができた。その理由として、事業の目的・内容が評価された結果、様々な助成金(計1,016万円、前年度より700万円増)を獲得できたことが挙げられる。券売も好調であり、大きな成果があったと考えている。

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
道風記念館展示 【道風記念館】	小野道風の偉業を顕彰し後世に伝えるとともに、書専門の美術館として、様々な展覧会を開催	特別展「琉球の書」489人 企画展「没後30年坪井正庵かな作品展」1,383人 企画展「おののとうふう～中国の書と和様の書～」1,474人 館蔵品展 「書体の変遷Ⅱ」1,335人、 「書の魅力」3,068人 「近現代の書(明治・大正編)」647人 年間観覧者数:8,652人(前年比988人減)	特別展「川谷尚亭の書」729人(前年度比240人増) 企画展「黒野清宇の書」1,167人(前年度比216人減) 企画展「おののとうふう～小野一族のひみつ～」1,045人(前年度比429人減) 館蔵品展 「近現代の書」985人 「書の魅力」3,044人 「読んで味わう書の世界」324人 年間観覧者数7,467人(前年比1,185人減)	書を専門とし、毎回異なったテーマを設け、全ての展示を自主企画し、専門家から高評価を得る質の高い展覧会を継続開催することができた。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、館蔵品展を会期中途中で終了した。	B ただし、年間の観覧者が減少傾向にあり、書の愛好家だけでなく広く一般の市民に来館してもらえよう、展示企画を検討する必要があると考えている。

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
ニュータウンきずな事業 【東部市民センター】	地域住民の再生と誇りの象徴である「どんぐり」をキーワードとした2つの事業と囲碁大会を開催	・どんぐり東部公民館まつり:6月16日・17日、1,996人(前年比625人減) ・どんぐりキッズ公民館:8月4日、参加者1,935人(前年比908人減) ・リニューアル記念イベント:2月9日、参加者2,820人 ・囲碁大会 2月11日、参加者56人	・どんぐり東部公民館まつり 6月15・16日、参加者2,220人(前年比224人増) ・どんぐりキッズ公民館 8月3日、参加者1,822人(前年比113人減) ・囲碁大会 2月11日、参加者48人(前年比8人減)	高蔵寺ニュータウン地区の「地域の拠点」として、文化事業による住民の「出会い」と「きずな」づくりの場として、地域交流や世代間交流の活性化を図る機会を創り出すことができた。	B ただし、どんぐりキッズ公民館の参加者数が減少しており、新たな企画を検討する必要がある。

オ 舞台公演、展覧会等に関連した体験事業の開催

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
自主文化事業 (鑑賞系事業) 【かすがい市民文化財団】 《再掲》	幅広く、質の高い魅力的な事業を実施し、年齢や性別、社会的状況等に関わらず誰もが芸術を鑑賞できる機会を提供	舞台系:日曜シネマ「輝ける人生」関連事業 ダンスワークショップ 24人 美術系:西本喜美子写真展関連事業「一日限定写真講座」73人、「あの時決まった写真展」44人、歌人・鈴掛真 短歌展「初めての短歌ワークショップ」19人	舞台系:かすがい日曜シネマ関連企画「はじめての茶道講座」11人、子ども向け演劇ワークショップ「ねこはしるのワンシーンをつくろう」18人 ※美術系:歌人・鈴掛真×名古屋学芸大協働プロジェクト展「初めての短歌ワークショップ」(応募者13人)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	鑑賞事業の関連事業として体験講座、ワークショップを開催することで、理解を深める機会を提供することができた。	B

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
道風記念館講座 【道風記念館】	書の鑑賞の手助けとなり、書に親しみを持ってもらえるような講座を開催	館蔵品展「書体の変遷Ⅱ」関連講座「楷書・行書・草書 三体の臨書」(全6回)47人 館蔵品展「近現代の書」関連講座「近現代の書の魅力」(全4回)61人	臨書講座「篆書・隸書の臨書」(全6回)57人(前年度比10人増) ※講座実施会場は長期にわたる補修工事のため、利用できなかったため、臨書講座のみの実施となった。	実技講座を受講することで、書への関心・理解を深める機会を提供することができた。 臨書講座は希望者が定員を超過したため、2回に分けて実施し、希望者全員を受け入れた。	B

(2) 子どもたちが文化芸術を体験する機会の提供

ア 子ども向け舞台公演、展覧会等の開催と関連する体験事業の実施

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
自主文化事業 (鑑賞系事業) 【かすがい市民文化財団】 《再掲》	幅広く、質の高い魅力的な事業を実施し、年齢や性別、社会的状況等に関わらず誰もが芸術を鑑賞できる機会を提供	・松竹大歌舞伎小中高生向け演目解説 51人 ・物語付きクラシックコンサート「アラジンと魔法のランプ」(親子向けのクラシックコンサート、登場人物が作曲家などについて解説) 1,575人	・松竹大歌舞伎小中高生向け演目解説 65人(前年度比14人増) ・親子わくわくプログラム KAKUTAのとびだす童話「ねこはしる」 259人 ※親子のためのはじめての音楽会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	親子向けの公演や、小中高生向けに歌舞伎の演目解説をすることで、若年層が芸術文化に対する関心・理解を深める機会を提供することができた。歌舞伎公演はリピーターが多く、平日にも関わらず参加者が増えるなど、定着が伺える。	B

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
道風記念館展示 道風記念館講座 【道風記念館】 《再掲》	子どもの書の鑑賞の手助けとなる解説をほどこした展示と、書に親しめるワークショップを開催	企画展「おののとうふう～中国の書と和様の書～」1,474人 関連ワークショップ 「道風くんにチャレンジ!」80人、「秘密の特訓」128人、「はじめてのふで」128人、計336人<定員超過>	企画展「おののとうふう～小野一族のひみつ～」1,045人 (前年度比429人減) 関連ワークショップ 「道風くんにチャレンジ!」80人、「秘密の特訓」128人、「はじめてのふで」128人、計336人<定員超過>	毎年切り口を変えて夏休みに開催している企画展にあわせてワークショップを開催。多くの小学生に体験の機会を提供することができた。	B ただし、鑑賞者数が減少しており、対応策の検討が必要と考えている。

イ 青少年鑑賞サポートプログラムの充実

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
青少年鑑賞サポートプログラム 【かすがい市民文化財団】	高校生以下を対象に舞台系事業を500円又は無料で、美術系事業を無料で鑑賞できるプログラムを提供	【舞台系】松竹大歌舞伎32人、南野陽子&葛西聖司伝統芸能の魅力発見! 5人、柳家小三治独演会18人、花形狂言27人、こまつ座「母と暮せば」27人、かすがい芸術劇場 12人、演劇×自分史 カスガイ創造プロジェクト 8人 【美術系】西本喜美子写真展198人、いのまたむつみ展287人、歌人・鈴掛真 短歌展41人	【舞台系】生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会 300人、松竹大歌舞伎 38人、アリア版ロミオとジュリエット43人、日本舞踊鑑賞会 46人、首藤康之×CAVA「レニングラード・ホテル」 19人、KAKUTAのとびだす童話「ねこはしる」137人、入船亭扇辰4人、石井正則～Sound of Story～ 4人 【美術系】日ペンの美子ちゃん原画展190人	小中高校生が芸術文化に直接触れる機会をサポートすることができた。 クラシック音楽、伝統芸能、演劇、パントマイム、朗読など幅広い分野のメニューを提供することができた。	B これまで日本舞踊鑑賞会では学生の鑑賞者はほとんどいなかったが、サポートプログラム制度の定着により、幅広い分野に学生を誘導することができた点も評価できると考えている。

ウ 小中学校への芸術家等の派遣

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
あ〜とふるマイタウン(芸術家等派遣事業) 【文化・生涯学習課】 《再掲》	書、伝統芸能に関する芸術家を公民館や学校等の身近な施設に派遣 ※音楽分野は、令和元年度より文化財団に移管し、「かすがいどこでもアート・ドア」事業で実施。	実施プログラム9、実施回数21回(前年度比2回減) ＜内訳＞ 音楽:4プログラム12回 書(篆刻を含む):3プログラム3回 伝統芸能(落語・日本舞踊):2プログラム6回	実施プログラム5、実施回数12回(前年度比9回減) ＜内訳＞ 書(篆刻を含む):3プログラム6回(前年度比3回増) 伝統芸能(落語・日本舞踊):2プログラム6回(増減なし)	保育園や小学校など26団体から応募があり、市民に鑑賞・体験の機会を提供することができた。普段は書くことができない大きな作品に取り組むことができ、小学校卒業を記念する作品を作成できたことと好評だった。	B あ〜とふるマイタウンでの派遣を契機に、書家への講師依頼を継続している学校が多数あり、成果があったと考えている。
かすがいどこでもアート・ドア(アウトリーチ事業) 【かすがい市民文化財団】 《再掲》	学校や保育園、福祉施設などにアーティストを派遣し、特別授業やコンサートを実施 ※「あ〜とふるマイタウン事業」のうち、音楽分野について、令和元年度より市より移管を受けた。	派遣アーティスト5名、実施回数12回(前年度比2回減) ＜内訳＞ 俳優・演出家3回、文芸(歌人)3回、美術家4回、舞踊(ダンサー)1回、音楽(ギター)1回	派遣アーティスト7組19名、実施回数15回(前年度比3回増) ＜内訳＞ 音楽(①三味線2回、②サクソフォン・打楽器3回、③フルート・オーボエ・ピアノ2回、④クラリネット・サクソフォン・ピアノ2回、⑤マリンバ・パーカッション・ピアノ2回、⑥ギター2回)、ダンス2回	文化財団のミッションに基づく普及啓発事業の柱として実施。小中学生に芸術を間近で感じられる機会を提供することができた。 中学校とあすなろ教室に派遣したギタリストの井草氏は、演奏だけでなく、学生時代の経験を通じたメッセージを伝えることができ、先生方から「普段は見られない生徒の一面を見ることができた」との声をいただいた。	B 市内で活動する若手音楽家5組を派遣しており、アーティストの経験値を上げることができた点も成果と考えている。

(3) 働く世代、若い世代の文化活動の促進

ア 親子と一緒に鑑賞・体験できる事業の充実

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
自主文化事業 (鑑賞系事業) 【かすがい市民文化財 団】 《再掲》	幅広く、質の高い魅力的な事業を実施し、年齢や性別、社会的状況等に関わらず誰もが芸術を鑑賞できる機会を提供	【舞台系】 松竹大歌舞伎小中高生向け演目解説 51人 物語付きクラシックコンサート 「アラジンと魔法のランプ」 (親子向けのクラシックコンサート、登場人物が作曲家などについて解説) 1,575人 親子のためのはじめての音楽会 340人	【舞台系】 松竹大歌舞伎小中高生向け演目解説 65人 親子わくわくプログラム KAKUTAのとびだす童話 「ねこはしる」 259人 ※親子のためのはじめての音楽会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	親子向けの公演を実施したり、小中高校生向けに歌舞伎の演目解説をすることで、若年層が芸術文化に対する関心・理解を深める機会を提供することができた。 親子のためのはじめての音楽は毎年好評な企画であるが中止となった。	B

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
青少年鑑賞サポートプログラム 【かすがい市民文化財団】 《再掲》	高校生以下を対象に舞台系事業を500円又は無料で、美術系事業を無料で鑑賞できるプログラムを提供	【舞台系】松竹大歌舞伎 32人、南野陽子&葛西聖司 伝統芸能の魅力発見! 5人、柳家小三治独演会 18人、花形狂言2018 27人、こまつ座「母と暮せば」 27人、芸術劇場 12人、演劇×自分史 カスガイ創造プロジェクト 8人 【美術系】西本喜美子写真展 198人、いのまたむつみ展 287人、歌人・鈴掛真 短歌展 41人	【舞台系】生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会 300人、松竹大歌舞伎 38人、アンプレ版ロミオとジュリエット 43人、日本舞踊鑑賞会 46人、首藤康之×CAVA「レニングラード・ホテル」 19人、KAKUTAのとびだす童話「ねこはしる」137人、かすがい芸術劇場 4人、石井正則～Sound of Story～ 4人 【美術系】日ペンの美子ちゃん原画展190人	小中高校生が芸術文化に直接触れる機会をサポートすることができた。 クラシック音楽、伝統芸能、演劇、パントマイム、朗読など幅広い分野のメニューを提供することができた。	B これまで日本舞踊鑑賞会では学生の鑑賞者はほとんどいなかったが、サポートプログラム制度の定着により、幅広い分野に学生を誘導することができた点も評価できると考えている。
かすがい文化フェスティバル 【かすがい市民文化財団】	茶華道や和楽器などの伝統文化や工作、書道などを体験できるワークショップを開催	・スペシャルデイ 7月29日(日) 363人、オープニングコンサート、14講座×2回(協力:文化協会・美術協会) ・ワークショップ 8月2日(木)～30日(木) 5講座 349人 ・夕涼みシネマ 8月18日(土) 325人	・スペシャルデイ 7月28日(日) オープニングコンサート 110人、13講座×2回352人(協力:文化協会・美術協会) ・ワークショップ 8月1日(木)～29日(木) 5講座 164人 ・夕涼みシネマ 8月17日(土) 415人	小学生にはなじみの薄い茶華道、日本舞踊などの伝統文化や書などを体験する機会を提供することができた。	B

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
道風記念館展示 道風記念館講座 【道風記念館】 《再掲》	子どもの書の鑑賞の手助けとなる解説をほどこした展示と、書に親しめるワークショップを開催	企画展「おののとうふう～中国の書と和様の書～」1,474人 関連ワークショップ 「道風くんにチャレンジ!」80人、「秘密の特訓」128人、「はじめてのふで」128人 計336人<定員超過>	企画展「おののとうふう～小野一族のひみつ～」1,045人 (前年度比429人減) 関連ワークショップ 「道風くんにチャレンジ!」80人、「秘密の特訓」128人、「はじめてのふで」128人 計336人<定員超過>	毎年切り口を変えて夏休みに開催している企画展にあわせてワークショップを開催。多くの小学生に体験の機会を提供することができた。	B ただし、鑑賞者数が減少しており、対応策の検討が必要と考えている。

イ 託児付き鑑賞事業等の充実

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
自主文化事業 (舞台系事業) 【かすがい市民文化財団】 《再掲》	ファミリー向け公演のうち、対象年齢が設定されている公演などで託児サービス(有料)を実施	・物語付きクラシックコンサート アラジンと魔法のランプ 利用者3人 ・春日井まつり前夜祭「山崎まさよし」利用者7人 (前年度は1公演で託児を実施したが、利用者0人だった。)	・生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会 利用者5人 「親子わくわくプログラム KAKUTAのとびだす絵本 ねこはしる」では、0歳から入場可能のため、託児サービス利用者なし。	1公演で託児サービスを提供することができた。 春日井まつり前夜祭は出演者が由紀さおりであり、客層から判断し、託児サービスは実施しなかった。	B 利用者が支払う料金のほかに、1公演あたり約5万円を文化財団が負担する必要があるため、費用対効果を考慮し、サービスを提供している。

ウ 働いている人も参加しやすい時間での鑑賞事業等の開催

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
自主文化事業 (昼コン・夜コン) 【かすがい市民文化財団】	おしゃべりを交えた気軽に聴けるコンサートを金曜日の夜と土曜日の昼に開催	昼コン 4~6、9~11月、土曜日14:00~ 6回計1,620人 夜コン 4~6、9~11月、金曜日19:00~ 6回計1,130人	昼コン 4~6、9~11月、土曜日14:00~ 6回計1,540人(前年度比80人減) 夜コン 4~6、9~11月、金曜日+特別編(11月7日(木))19:00~ 7回計1,035人(前年度比1回増、95人減)	金曜日の仕事帰りに、気軽に音楽を鑑賞できる機会を提供することができた。 金曜日に加え、特別編として11月7日(木)にもコンサートを実施した。	B

エ 文化活動を行う市民が発表する場の提供

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
市民美術展覧会 【文化・生涯学習課(かすがい市民文化財団に事業委託)】 《再掲》	市民が制作した美術作品(日本画・洋画・書・彫塑工芸・写真)の発表と鑑賞の場を提供	第67回展8月25日(土)~9月2日(日) 出品数746点(前年度比47点減)、鑑賞者11,384人(前年度比324人増) 会場:市役所10~12階、文化フォーラム春日井 出品資格:市内在住または在勤・在学の高校生以上(出品無料)	第68回展8月17日(土)~8月25日(日) 出品数703点(前年度比43点減)、鑑賞者10,035人(前年度比1,349人減) 会場:変更なし 出品資格:変更なし	審査員解説を行うことで、出品者の励みとなり、また鑑賞のサポートとするなど、美術作品の発表・鑑賞の機会を提供することができた。 他市の美術展と比較し、「出品数・作品レベルとも高い」と審査会員より評価を受けている。	B ただし、出品数が減少しており、対応策の検討が必要と考えている。

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
市民第九演奏会 【文化・生涯学習課(実行委員会に事業委託<事務局:中部大学>)】 《再掲》	合唱及び演奏を行う市民に練習の場と発表の場を提供し、市民手作りの演奏会を開催	2018春日井市民第九演奏会 12月2日(日) 出演者328人(指揮者・ソリスト5人、交響楽団80人、合唱団214人、賛助出演29人)(前年度比3人増)、入場者875人(前年度比85人増)	2019春日井市民第九演奏会 12月8日(日) 出演者308人(指揮者・ソリスト5人、交響楽団81人、合唱団180人、賛助出演42人)(前年度比20人減)、入場者839人(前年度比36人減)	合唱参加者には6か月間、22回の練習機会を提供するなど、出演者と鑑賞者に芸術を楽しむ機会を提供することができた。児童合唱団の賛助出演を得て、出演者の世代間交流を促すことができた。	B ただし、合唱参加者が減少しており、新規参加者を呼込む方策が必要と考えている。
短詩型文学祭 【文化・生涯学習課(かすがい市民文化財団に事業委託)】 《再掲》	短歌、俳句、川柳、狂俳(一般の部のみ)、詩の作品を公募し、入選作品を掲載した作品集を作成。作品展では特別賞受賞作品等を展示	第38回短詩型文学祭作品展 1月26日(土)~2月11日(月・祝) 出品数:一般の部(高校生以上)733点、小・中学生の部22,713点、計23,446点(前年度比514点増)、鑑賞者2,480人(前年度比1,543人減) 会場:文化フォーラム春日井 出品資格:市内在住または在勤・在学(出品無料)	第39回短詩型文学祭作品展 1月25日(土)~2月9日(日) 出品数 一般の部(高校生以上)764点、小・中学生の部24,801点、計25,565点(前年度比2,119点増)、鑑賞者3,830人(前年度比1,350人増) 会場:変更なし 出品資格:変更なし	表彰式では、市長賞受賞者のスピーチもあり、鑑賞者の共感を呼ぶ機会となっている。幅広い鑑賞者があり、文芸作品の発表・鑑賞の機会を提供することができた。平成30年度は市民会館改修工事に開催時期が重なり鑑賞者が減少したが、令和元年度は回復させることができた。	B ただし、認知度が高くないので、より多くの市民に知っていただくための方策が必要と考えている。

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
<p>小野道風公奉賛全国書道展覧会(道風展) 【文化・生涯学習課(運営委員会に事業委託<事務局:かすがい市民文化財団>】 《再掲》</p>	<p>書作品を全国から公募し、春日井市で生まれたと伝えられる小野道風の偉業を顕彰するとともに、展覧会を開催</p>	<p>第70回展10月28日(日)～11月4日(日) 出品数:一般部340点、学生部(高校生以下)5,981点、計6,321点(前年度比178点減)、鑑賞者:5,017人(前年度比162人減) 会場:市役所10～12階、文化フォーラム春日井・ギャラリー、道風記念館、愛知県美術館ギャラリー、グルッポふじとう、西部ふれあいセンター、庁舎 出品資格:制限なし(出品料有料)</p>	<p>第71回展10月27日(日)～11月4日(月・休) 出品数:一般部289点、学生部(高校生以下)5,630点、計5,919点(前年度比402点減)、鑑賞者:4,195人(前年度比882人減)、新たにインターネット上でVR展を実施:1,037アクセス 会場:名古屋展(愛知県美術館ギャラリー)を廃止、春日井駅(学生半紙の部特別賞受賞作品)<新規> 出品資格・出品料:変更なし</p>	<p>出品案内を全国の高校・大学、書関連美術館に配布するなど「書のまち春日井」を全国発信するとともに、高いレベルの作品が数多く寄せられ、書道文化の振興を図ることができた。 鑑賞者減少対策もあり、新たにVR展を実施。遠方の出品者など来場しづらい方にも鑑賞機会を提供することができた。 市の玄関口であるJR春日井駅で展示を行うことで、鑑賞機会の提供と共に「書のまち春日井」をPRすることができた。</p>	<p>B ただし、出品数が減少傾向にあるので、新規出品者を呼込む方策が必要と考えている。</p>

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
アトリウム音楽祭 【かすがい市民文化財 団】	市内外で活動してい るアマチュア音楽団 体が日頃の成果を 発表する音楽発表 会	9月8日(土)・9日(日)15 団体、295名出演、鑑 賞者811人 3月2日(土)・3日(日) 16団体、357名出演、 鑑賞者1,129人	9月7日(土)・8日(日) 15団体、220名出演 (前年度比75人減)、 鑑賞者1,019人(前 年度比208人増) ※3月7日(土)・8日 (日)16団体出演で 実施予定だったが、 新型コロナウイルス感 染症拡大防止のため 中止。	アマチュア音楽団に 発表の機会を提供す ることができた。 プロの司会者と音響 スタッフがバックア ップするため、出 演者の満足度も高 く、出演者と観客 が共に楽しめる機 会を提供することが できた。	B
道風の手臨書作品展 【道風記念館】	三跡(小野道風、藤 原佐理、藤原行成) の書を課題とし、 臨書作品を全国 から公募 開館以来継続して 展覧会を開催	第37回展1月11日 (金)～20日(日) 出品数:一般部/白 氏詩巻252点、秋 萩帖265点 高校生の部/智証 大師諡号勅書 2,894点、継色紙 243点 合計3,654 点(前年比197点 減) 鑑賞者:356人 会場:道風記念館 出品資格 制限なし (出品料、表装料 無料)	第38回展1月10日 (金)～19日(日) 出品数:一般部/ 屏風土代255点、 伊予切282点 高校生の部/屏風 土代2,766点、本 阿弥切245点、合 計3,548点(前年 比106点減) 鑑賞者:348人 (前年比8人減) 会場:変更なし 出品資格・出品料: 変更なし	小野道風を始めとし た三跡の和様の書 を学び、鑑賞する 機会を提供するこ とで、小野道風の 顕彰を行うことが できた。 全国各地から応募 があり、広く「書 のまち春日井」を 発信することがで きた。	B

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
公民館まつり・ふれあいセンター芸能発表会 【各公民館・各ふれあいセンター】	公民館・ふれあいセンターで活動する同好会の成果発表会を開催	中央公民館 19団体出演・出展、延べ参加者1,572人 知多公民館 24団体出演・出展、延べ参加者1,220人 鷹来公民館 38団体出演・出展、延べ参加者2,112人 坂下公民館 33団体出演・出展、延べ参加者1,489人 東部公民館 24団体出演・出展、延べ参加者1,996人 南部ふれあいセンター 延べ参加者385人 西部ふれあいセンター 延べ参加者1,449人	中央公民館 26団体出演・出展、延べ参加者1,672人 東部公民館 23団体出演・出展、延べ参加者2,220人 南部ふれあいセンター 延べ参加者367人 西部ふれあいセンター 延べ参加者1,358人 ※知多公民館、鷹来公民館、坂下公民館では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業を中止した。	地域で活動する様々な団体に成果発表の機会を提供するとともに、各団体の交流を図ることができた。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、複数の施設で事業を実施することができなかった。	B ※開催分についての み評価
ハーモニーフェスティバル 【青年の家】	ハーモニー春日井で活動する同好会の成果発表会を開催	17団体出演、延べ参加者506人	15団体出演、延べ参加者714人(前年度比208人増) 20回記念のため、例年にならない複数団体(市民吹奏楽団、市交響楽団、和太鼓2団体、篠笛)によるコラボレーション演奏も実施	音楽団体に成果発表の機会を提供するとともに、各団体の交流を図ることができた。 コラボレーション演奏により、参加団体の交流をより深めることができた。	B

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
レディヤン祭 【男女共同参画課】	登録団体の交流を図り活動発表を実施することで、活動の周知や男女共同参画社会に向けた意識づくりの機会とする	第27回12月8日(土)来場者2,700人(前年度比100人減) ・活動団体によるステージ発表9団体 ・活動団体による体験教室15団体 ・スタンプラリー、招へい事業(マリンバ演奏)ほか	第28回12月14日(土)来場者2,000人(前年度比700人減) ・活動団体によるステージ発表8団体(前年度比1団体減) ・活動団体による体験教室16団体(前年度比1団体増) ・スタンプラリー、招へい事業(音楽アンサンブル)ほか	参加団体の協力により、日ごろの活動成果の発表を行うことができた。また、多くの来場者があり活動団体の周知を図ることができた。	B ただし、来場者数が減少しているため、対応策の検討が必要と考えている。

(4) 高齢者、障がい者等の鑑賞機会の充実

ア 高齢者、障がい者等にも配慮した鑑賞機会の提供

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
自主文化事業 (鑑賞系事業) 【かすがい市民文化財 団】 《再掲》	幅広く、質の高い魅力的な事業を実施し、年齢や性別、社会的状況等に関わらず誰もが芸術を鑑賞できる機会を提供	舞台系:松竹大歌舞伎 1,878人、南野陽子&葛西聖司 伝統芸能の魅力発見! 479人、フォレスタコンサート 963人、山下洋輔スペシャル・ビッグバンド・コンサート 792人、柳家小三治独演会 977人、花形狂言 421人、こまつ座「母と暮せば」462人、神田松之丞独演会190人、人形劇団むずび座「父と暮らせば」155人 日曜シネマ(全6回)にてボランティア団体の協力を得て聴覚障がい者のためのシーンボイスガイドを実施	舞台系:生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会 1,888人、松竹大歌舞伎 1,940人、有門正太郎プレゼンツアリプレ版ロミオとジュリエット 248人、中部フィル春日井特別演奏会 658人、第29回日本舞踊鑑賞会 351人、首藤康之×CAVAレニングラード・ホテル 267人、入船亭扇辰独演会 186人、石井正則～Sound of Story～ 197人、和装ハーピスト綾 和を愛でる 114人 日曜シネマ(全4回)にてボランティア団体の協力を得て聴覚障がい者のためのシーンボイスガイドを実施	各舞台公演で車いす席を設定、映画上映会でシーンボイスガイドを実施するなど高齢者や障がい者等にも配慮した鑑賞機会を提供することができた。	B

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
福祉の里レインボープラザでの事業 【社会福祉協議会】	「ハッピーコンサート」等の開催により鑑賞の機会を提供し、「だれでもアーティスト」等の開催により発表と鑑賞の機会を提供	【鑑賞事業】ハッピーコンサート<6回> 1,013名、レインボーシネマ<15回> 50名、クリスマスコンサート 145名 【参加・鑑賞事業】だれでもアーティスト 参加・鑑賞者150名、歌声アトリウム 参加・鑑賞者 116名、新春かくし芸大会 参加・鑑賞者93名、演芸フェスタ参加・鑑賞者 98名	【鑑賞事業】ハッピーコンサート<5回> 770名、レインボーシネマ<10回> 45名、クリスマスコンサート 122名 【参加・鑑賞事業】だれでもアーティスト 参加・鑑賞者 135名、演芸フェスタ 参加・鑑賞者 49名、軽音楽のタベ参加・鑑賞者 74名、ストリートピアノ<137回> 529人	参加者のニーズに合わせた多種多様な催しを開催することで、高齢者や障がい者に幅広い鑑賞機会を提供することができた。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月は事業が中止となった。	B 参加者のニーズを汲んで事業を実施しており、成果があったと考えている。

イ 福祉施設、病院等での文化事業の開催

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
まちかどコンサート 【文化・生涯学習課】 ＜単年度事業＞ 《再掲》	コンサートグループ「花の詩」と協働し、市内各所でコンサートを開催	市民病院ほかでコンサートを12回開催 鑑賞者 計2,153人、出演者 延べ80人	なし (市制75周年記念事業のため)	—	—

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
あ〜とふるマイタウン(芸術家等派遣事業) 【文化・生涯学習課】 《再掲》	書、伝統芸能に関する芸術家を公民館や学校等の身近な施設に派遣 ※音楽分野は、令和元年度より文化財団に移管し、「かすがいどこでもアート・ドア」事業で実施。	実施プログラム9、実施回数21回(前年度比2回減) ＜内訳＞ 音楽:4プログラム12回 書(篆刻を含む):3プログラム3回 伝統芸能(落語・日本舞踊):2プログラム6回	実施プログラム5、実施回数12回(前年度比9回減) ＜内訳＞ 書(篆刻を含む):3プログラム6回(前年度比3回増) 伝統芸能(落語・日本舞踊):2プログラム6回(増減なし)	保育園や小学校、地区社会福祉協議会など26団体から応募があり、市民に鑑賞・体験の機会を提供することができた。 デイサービスに書家を派遣し、職員からは「貴重な体験ができた」との声があがっていた。	B 文化財団への移管は、事業効果を上げるために妥当な判断であると考えている。
かすがいどこでもアート・ドア(アウトリーチ事業) 【かすがい市民文化財団】 《再掲》	学校や保育園、福祉施設などにアーティストを派遣し、特別授業やコンサートを実施 ※「あ〜とふるマイタウン事業」のうち、音楽分野について、令和元年度より市より移管を受けた。	派遣アーティスト5名、実施回数12回(前年度比2回減) ＜内訳＞ 俳優・演出家3回、文芸(歌人)3回、美術家4回、舞踊(ダンス)1回、音楽(ギター)1回	派遣アーティスト7組19名、実施回数15回(前年度比3回増) ＜内訳＞ 音楽(①三味線2回、②サクソフォン・打楽器3回、③フルート・オーボエ・ピアノ2回、④クラリネット・サクソフォン・ピアノ2回、⑤マリンバ・パーカッション・ピアノ2回、⑥ギター2回)、ダンス2回 ※総合福祉センターや福祉事業所等の福祉施設、地区の集会以場で5回実施	文化財団のミッションに基づく普及啓発事業の柱として実施し、幼児や福祉施設の利用者等に芸術を身近で感じられる機会を提供することができた。 文芸と美術分野については、アウトリーチからワークショップへ切り替えたため、地域に身近な会場での機会提供は減少した。	B 市内で活動する若手音楽家5組を派遣しており、アーティストの経験値を上げることができた点も成果と考えている。

評価指標に基づく実績

成果指標	現状値	目標値		実績値	
	2016年度	2021年度	2026年度	2018年度	2019年度
文化芸術の活動をしている人の割合	14.5%	20.0%	25.0%	2021年度に測定	2021年度に測定

施策ごとの評価

事業の評価	特記事項
A 計画以上の成果が得られた。	<p>前年度同様、文化財団の事業を中心に、幅広く、質の高い魅力的な事業が実施されており、年齢や性別に関わらず多くの市民が、拠点となる文化施設又は身近な施設で芸術を鑑賞できる機会が提供されており、評価できる。</p> <p>また、小中高校生など若い世代に対し鑑賞を促すような取り組みが実施され、高齢者に対しても多くの鑑賞機会が提供されており、いずれも評価できる。</p> <p>前年度同様、音楽を演奏したり、書画を描くなどの文化活動に取り組んでいる市民に対し、様々な発表の場が提供されている点は評価できるが、参加者数が減少してきている点が課題である。新たな参加者を呼び込むような、活動のきっかけ作りが望まれる。</p>
B 概ね計画どおりの成果が得られた	
C 成果が得られた事業が多かった	
D 成果が得られた事業は少なかった	
E 成果は得られなかった	

施策② 次世代の文化活動を担う人材の育成

施策ごとの事業の成果

(1) 若手芸術家等の活動の支援

ア 若手美術家等の作品を取り上げる展覧会の開催

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
自主文化事業 (鑑賞系事業) 【かすがい市民文化財 団】 《再掲》	幅広く、質の高い魅力的な事業を実施し、年齢や性別、社会的状況等に関わらず誰もが芸術を鑑賞できる機会を提供	歌人・鈴掛真 短歌展 835人 春日井市出身の若手歌人・鈴掛真が映像やインスタレーションの手法を用いて、自身作の短歌を展示	鈴掛真×名古屋学芸大協働プロジェクト展 842人 鈴掛真と名古屋学芸大学映像メディア学科の学生による「言葉」をテーマに表現方法を探る協働プロジェクト 鈴掛の短歌を選び、学生自身の解釈で、映像や写真、インスタレーション作品などを制作 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会期途中で中止	若手歌人の短歌を基に、歌人と学生が相互にコミュニケーションを取りながら、学生自身の解釈で新たな手法を用いた作品を制作した。こういった展覧会を開催することで、市民に鑑賞機会を提供するとともに、歌人自身にも大きな刺激を与え、学生に新たな表現方法による発表の機会を提供することができた。	A 若手作家と学生のコラボレーションにより、指導教員が想定していた以上に学生個人の個性を作品として表現することができ、大いに評価できる結果になったと考えている。

イ 若手音楽家等の自主的活動の支援

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
自主文化事業 (若手音楽家支援事業) 【かすがい市民文化財 団】	若手音楽家を3年間にわたり活動支援するプログラム。1年目にあたり、ワンコインコンサートを開催	ワンコインコンサート(入場料500円のコンサート) ・Trio Primavera 6月1日(金) 126人 ・Lune 9月22日(土) 106人 ・Shiki's Friends 1月26日(土) 185人<満席>	ワンコインコンサート(入場料500円のコンサート) ・ASTER 10月25日(金) 72人 ・Xmas Special 12月7日(土) 4団体出演、342人 ・MeisA 12月27日(金) 159人 ※Trombone Ensemble Gaio 3月13日(金)に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、次年度に延期	地域に根差した音楽家を育成する第1歩として、若手音楽家に発表の機会を提供することができた。若手音楽家支援事業2年目となり、第1期登録アーティスト4組による合同コンサートを実施。これをきっかけに出演依頼を受ける団体もあり、今後の活動を支援することができた。	A 演奏機会を増やしスキル向上のために実施した合同コンサートが、次の出演機会を呼び込む結果となり、大きな成果となったと考えている。

ウ 幅広い分野での文化活動を行う市民等への支援

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化活動事業助成 【文化・生涯学習課】	芸術文化振興を図るため、文化活動団体が行う事業に対して補助金を交付	<ul style="list-style-type: none"> ・春日井市文化振興補助金交付要綱による補助 文化協会、美術協会、市民音楽連盟、交響楽団、児童合唱団 ・文化スポーツイベント補助金交付要綱による補助 国内での文化事業への参加 1団体、個人2人 	<ul style="list-style-type: none"> ・春日井市文化振興補助金交付要綱による補助 文化協会、美術協会、市民音楽連盟、交響楽団、児童合唱団 ・文化スポーツイベント補助金交付要綱による補助 周年記念事業実施1団体 国内での文化事業への参加 2団体、個人2人 	文化活動団体及び全国大会に出場する個人への補助金交付により、市民の文化活動の支援を行うことができた。	B

(2) 芸術家等と市民との交流の促進

ア 若手芸術家によるワークショップ等の開催

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
自主文化事業 (鑑賞系事業) 【かすがい市民文化財 団】 《再掲》	幅広く、質の高い魅力的な事業を実施し、年齢や性別、社会的状況等に関わらず誰もが芸術を鑑賞できる機会を提供	・歌人・鈴掛真 短歌展 関連事業「初めての短歌ワークショップ」19人	・みんなの美術部 (1) 美術家/本山ゆかり 44人 (2) イラストレーター/三輪布巳子 63人 (3) グラフィックデザイナー/太田米香 41人 ・ヒット曲で踊るダンス教室 ダンサー・振付家/服部哲郎 2回、40人(※4回のうち2回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止) ※鈴掛真×名古屋学芸大協働プロジェクト展 関連事業「初めての短歌ワークショップ」(応募者13人)は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止	令和元年度から始まったみんなの美術部は誰でも参加できる部活として、様々なジャンルの講師を迎え講座を開催。作品制作だけでなく鑑賞することや話し合う時間も重視して実施し、作品制作と鑑賞の機会を提供することができた。また、10代から60代までの参加者は回を重ねるごとに世代間交流を深めることもできた。 平成30年度の日曜シネマ関連企画「輝けるダンス講座」の好評から実施に至ったダンス講座。若手芸術家にも、受講者にも新たな機会を提供することができた。	A 若手芸術家と参加者との間の交流だけでなく、参加者間の交流を深めることができ、大きな成果があったと考えている。 元美術科教員にエデュケーショナルアドバイザーに就任してもらい、講師となる若手芸術家と参加者の双方をサポートしていただいた結果、事業を円滑に進めることができた点は大きな成果と考えている。

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
かすがい文化フェスティバル 【かすがい市民文化財団】 《再掲》	茶華道などの伝統文化や工作、書道などを体験できるワークショップを開催	若手芸術家によるワークショップ 8月2日(木)「親子で作ろう!はさみ切り絵」19人 8月30日(木)「みんなで巨大すごろくを作ろう!」20人	若手芸術家によるワークショップ 8月1日(木)「和紙で作ろう!自分だけのアイスクリーム」33人、8月15日(木)「みんなで踊ろう!オリジナルダンス」13人、8月22日(木)「段ボールや廃材でオリジナル変身マスクを作ろう!」17人	若手芸術家により、親子で楽しめる体験機会を提供することができた。	B

イ 小中学校への芸術家等の派遣

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
あ〜とふるマイタウン(芸術家等派遣事業) 【文化・生涯学習課】 《再掲》	書、伝統芸能に関する芸術家を公民館や学校等の身近な施設に派遣 ※音楽分野は、令和元年度より文化財団に移管し、「かすがいどこでもアート・ドア」事業で実施。	実施プログラム9、実施回数21回(前年度比2回減) <内訳> 音楽:4プログラム12回 書(篆刻を含む):3プログラム3回 伝統芸能(落語・日本舞踊):2プログラム6回	実施プログラム5、実施回数12回(前年度比9回減) <内訳> 書(篆刻を含む):3プログラム6回(前年度比3回増) 伝統芸能(落語・日本舞踊):2プログラム6回(増減なし)	保育園や小学校、地区社会福祉協議会など26団体から応募があり、市民に鑑賞・体験の機会を提供することができた。 書を体験した園児から「もっと書きたい」との声があがっていた。	B 文化財団への移管は、事業効果を上げるために妥当な判断であると考えている。

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
<p>かすがいどこでもアート・ドア(アウトリーチ事業) 【かすがい市民文化財団】 《再掲》</p>	<p>学校や保育園、福祉施設などにアーティストを派遣し、特別授業やコンサートを実施 ※「あ〜とふるマイタウン事業」のうち、音楽分野について、令和元年度より市より移管を受けた。</p>	<p>派遣アーティスト5名、実施回数12回(前年度比2回減) <内訳> 俳優・演出家3回、文芸(歌人)3回、美術家4回、舞踊(ダンサー)1回、音楽(ギター)1回</p>	<p>派遣アーティスト7組19名、実施回数15回(前年度比3回増) <内訳> 音楽(①三味線2回、②サクソフォン・打楽器3回、③フルート・オーボエ・ピアノ2回、④クラリネット・サクソフォン・ピアノ2回、⑤マリンバ・パーカッション・ピアノ2回、⑥ギター2回)、ダンス2回</p>	<p>文化財団のミッションに基づく普及啓発事業の柱として実施し、小中学校等に芸術を間近で感じられる機会を提供することができた。 中学校とあすなる教室に派遣したギタリストの井草氏は、演奏だけでなく、学生時代の経験を通じたメッセージを伝えることができ、先生方から「普段は見られない生徒の一面を見ることができた」との声をいただいた。 文芸と美術分野については、アウトリーチからワークショップへ切り替えたため、地域に身近な会場での機会提供は減少した。</p>	<p>B 市内で活動する若手音楽家5組を派遣しており、アーティストの経験値を上げることができた点も成果と考えている。 元美術科教員にエデュケーショナルアドバイザーに就任してもらい、講師となる若手芸術家と参加者の双方をサポートしていただいた結果、事業を円滑に進めることができた点は大きな成果と考えている。</p>

(3) 文化活動団体等の活動の促進

ア 文化活動団体等の活発な活動の促進

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化活動事業助成 【文化・生涯学習課】	芸術文化振興を図るため、文化活動団体が行う事業に対して補助金を交付	<ul style="list-style-type: none"> ・春日井市文化振興補助金交付要綱による補助 文化協会、美術協会、市民音楽連盟、交響楽団、児童合唱団 ・文化スポーツイベント補助金交付要綱による補助 国内での文化事業への参加 1団体、個人2人 	<ul style="list-style-type: none"> ・春日井市文化振興補助金交付要綱による補助 文化協会、美術協会、市民音楽連盟、交響楽団、児童合唱団 ・文化スポーツイベント補助金交付要綱による補助 周年記念事業実施1団体 国内での文化事業への参加 2団体、個人2人 	文化活動団体及び全国大会に出場する個人への補助金交付により、市民の文化活動の支援を行うことができた。	<p>B</p> <p>ただし、文化活動団体の会員数が減少しており、補助金交付以外の支援策の検討が必要と考えている。</p>

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
共催事業 【かすがい市民文化財団】	文化活動団体の活動を支援するため、様々な団体との共催事業を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・かすがい人形劇フェスティバル 主催:愛知県人形劇協会、かすがい人形劇フェスティバル実行委員会 ・第26回春日井市高等学校吹奏楽フェスティバル 主催:春日井市高等学校吹奏楽協議会 ・とっておきのクリスマスコンサート 主催:春日井児童合唱団 	<ul style="list-style-type: none"> ・かすがい人形劇フェスティバル 主催:愛知県人形劇協会、かすがい人形劇フェスティバル実行委員会 ・第27回春日井市高等学校吹奏楽フェスティバル 主催:春日井市高等学校吹奏楽協議会 ・とっておきのクリスマスコンサート 主催:春日井児童合唱団 	文化財団の持つ専門技術や経験を活かし、各団体が実施する事業を共催という形で支え、文化活動団体の活動を支援することができた。 人形劇フェスティバルに、中部大学子育てすくすく育て隊、愛知県立大学人形劇サークルとびねこも参加し、幅広い世代の交流を深めることもできた。	B
舞台制作セミナー 【かすがい市民文化財団】	文化財団の持つ専門技術や経験を基に、照明・音響・舞台技術の基礎知識を伝えるセミナーを実施	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台制作セミナー高校吹奏楽版:会場/文化フォーラム春日井、参加者28人(参加校:春日井高校、春日井西高校、春日井東高校、春日井南高校、春日井商業高校、高蔵寺高校) ・舞台制作セミナー高校演劇版:会場/文化フォーラム春日井、参加者18人(参加校:春日井高校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台制作セミナー高校吹奏楽版:会場/市民会館、参加者14人(参加校:春日井西高校、春日井東高校、高蔵寺高校) ・舞台制作セミナー高校演劇版:会場/春日井高校、参加者29人(参加校:春日井高校) 	実際の舞台道具を用いて舞台に関する専門技術を高校生に伝えることで、高校生の文化活動を支援することができた。	B

イ 文化活動団体等による体験講座の支援

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化活動事業助成 【文化・生涯学習課】 《再掲》	芸術文化振興を図るため、文化活動団体が行う事業に対して補助金を交付	春日井市文化振興補助金交付要綱による補助 ・文化協会/入門講座10講座 ・市民音楽連盟/ワークショップ1講座、初心者講習会1講座	春日井市文化振興補助金交付要綱による補助 ・文化協会/入門講座10講座 ・市民音楽連盟/ワークショップ1講座、初心者講習会1講座	初心者向けの講座を実施する文化活動団体への補助金交付により、市民の文化活動の支援を行うことができた。	B

評価指標に基づく実績

成果指標	現状値	目標値		実績値	
	2016年度	2021年度	2026年度	2018年度	2019年度
若手音楽家等の学校派遣による特別授業の受講児童・生徒数	653人	700人	800人	569人	405人

< 参考 >	基準値	実績値	
	2016年度	2018年度	2019年度
高校生以下を対象とするアウトリーチ事業の実施回数	23回	18回	13回

施策ごとの評価

事業の評価	特記事項
A 計画以上の成果が得られた	文化財団による「みんなの美術部」が始動するとともに、春日井市出身の若手歌人・鈴掛真と名古屋学芸大情報メディア学科との協働プロジェクト展が開催されるなど、若手芸術家の活動支援が積極的に行われており評価できる。
B 概ね計画どおりの成果が得られた	成果指標としている「若手音楽家等の学校派遣による特別授業の受講児童・生徒数」は減少したが、これは文化財団が実施しているアウトリーチ事業で、美術分野のプログラムをワークショップ（みんなの美術部）に切り替えたため減少したものであり、単純な減少と捉えるべきではないと判断した。「みんなの美術部」では、世代間の交流も生まれており、実際に文化芸術に触れる子どもたちにとって、より良い体験機会となっている状況が認められ、評価できる。
C 成果が得られた事業が多かった	また、文化活動団体等に対する支援について、継続的な支援ができている点は評価できる。
D 成果が得られた事業は少なかった	高齢化の進行によって文化活動団体の活動が厳しくなると想定されるので、引き続きその支援策の検討が望まれる。
E 成果は得られなかった	

施策③ 知りたい人に届く文化情報発信

施策ごとの事業の成果

(1) 幅広く効果的な文化情報発信

ア インターネットで地域の文化情報の発信

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
春日井市ホームページ 【広報広聴課】	市民に必要な情報を迅速に提供するため、市ホームページという媒体を活用して情報を発信	・毎月15日号広報春日井に掲載した「まちのイベントニュース」を春日井市ホームページでも掲載 ・市ホームページのセキュリティ強化を図るため、HTTPS化(通信暗号化)を実施	・毎月15日号広報春日井に掲載した「まちのイベントニュース」を春日井市ホームページでも掲載	市民グループの発表会などの情報を幅広く発信することができた。	B
文化財団ホームページ 【かすがい市民文化財団】	文化財団の実施している事業の情報や、管理運営している文化フォーラム春日井及び春日井市民会館の情報を発信	・施設のイベントカレンダーを作成し、市民グループの発表会や作品展などの情報を文化財団ホームページに掲載 ・文化財団ホームページのセキュリティ強化を図るため、HTTPS化(通信暗号化)を実施	・施設のイベントカレンダーを作成し、市民グループの発表会や作品展などの情報を文化財団ホームページに掲載	文化財団の事業だけではなく、市民グループの発表会などの情報を幅広く発信することができた。	B

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
外部団体が運営するインターネットサイトへの情報提供 【道風記念館】	道風記念館の施設情報や展覧会情報等を、外部サイトを通して発信	愛知県生涯学習情報提供システム「学びネットあいち」 日本観光振興協会「観るなび」 Internet Museum DNP Museum information Japan 「art scape」 子供とお出かけ情報サイト「いこーよ」	愛知県生涯学習情報提供システム「学びネットあいち」 日本観光振興協会「観るなび」 Internet Museum DNP Museum information Japan 「art scape」 子供とお出かけ情報サイト「いこーよ」	外部の情報サイトを活用することで、幅広い層に情報発信を行うことができた。	B
生涯学習情報サイト「まなびや選科」 【文化・生涯学習課】	市内で活動する団体や、市内で活躍する講師の情報及び公民館等で開催されるイベントや講座情報を発信	講師登録者271人 団体登録数153団体 サイトアクセス数41,593件	講師登録者294人(前年度比23人増、新規登録者28人、削除者5人) 団体登録数146団体(前年度比7団体減、新規登録団体5、削除団体12) サイトアクセス数37,374件(前年度比4,219件減)	公民館やふれあいセンター等で活動する生涯学習活動団体及び、講師として活動する市民の情報発信を行うことができた。 高齢化で活動を取りやめる団体もあり、12団体が掲載を取りやめた。	B ただし、アクセス数が低下しており、サイトの周知方法を検討する必要があると考えている。

イ 市民の意見や入場者数等の分析に基づく情報発信の改善

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
自主文化事業 (鑑賞系事業) 【かすがい市民文化財 団】 《再掲》	幅広く、質の高い魅力的な事業を実施し、年齢や性別、社会的状況等に関わらず誰もが芸術を鑑賞できる機会を提供	各事業でアンケートを実施し、そこに記載された興味・関心のあるジャンルを基に公演案内を送付 チケット管理システムに蓄積された過去のチケット購買履歴を基に公演案内を送付	各事業でアンケートを実施し、そこに記載された興味・関心のあるジャンルを基に公演案内を送付 チケット管理システムに蓄積された過去のチケット購買履歴を基に公演案内を送付	情報を求めている顧客に効率的に情報を届けることができた。	B

ウ 文化財団情報誌「FORUM PRESS」等での文化芸術の魅力の発信

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化財団情報誌「FORUM PRESS」 【かすがい市民文化財団】	自主文化事業を中心とした芸術文化情報及び施設に関する情報を掲載した情報誌を発行	A4サイズ16ページ フルカラー 隔月(年6回)10,000部 ・自主文化事業に関する情報 ・FORUM PRESSレポーター(ボランティア)による公演感想記「わたしのレポート」 ・春日井に関わる人にインタビューした「あの人と、春日井と」 ・「校歌は地域をうたう」「PiPi提携ショップガイド」などの地域にまつわるコンテンツ	A4サイズ16ページ フルカラー 隔月(年6回)10,000部 ・自主文化事業に関する情報 ・FORUM PRESSレポーター(ボランティア)による公演感想記「わたしのレポート」 ・春日井に関わる人にインタビューした「あの人と、春日井と」 ・「校歌は地域をうたう」「PiPi提携ショップガイド」などの地域にまつわるコンテンツ	これから開催される自主事業に関する情報だけではなく、記事を読んで興味がわくような情報発信を行うことができた。 読者アンケートでも大変好評であり、施設や文化財団の事業についてだけでなく、春日井市の魅力をPRすることができた。	B

エ 文化財団友の会会員等への情報発信

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
友の会事業 【かすがい市民文化財団】	自主事業のチケット先行発売・割引購入が可能な有料会員制度	友の会会員(有料) 1,172人 Web会員(無料) 4,293人 合計5,465人 隔月で文化財団情報誌「FORUM PRESS」や自主文化事業等のチラシ類を送付	友の会会員(有料) 828人(新規入会116人、更新712人) Web会員(無料) 5,464人(前年度比1,171人増) 合計6,292人(前年度比827人増) 隔月で文化財団情報誌「FORUM PRESS」や自主文化事業等のチラシ類を送付 メールアドレス登録者にはチケット販売情報をメール配信	文化芸術に関心の高い会員に最新の情報を提供することができた。 チケット先行予約や座席を指定しての予約も可能なため、比較的若い世代を中心にWeb会員を増やすことができた。	B 有料会員に過度なサービスをを行う必要はないと考えるが、会員減少への対策は必要と考えている。

オ JR各駅や地元商店街等でのポスター掲示、チラシ配布等

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
JR各駅での広報配布 【広報広聴課】	JRの各駅で広報春日井を配布するとともに、JR高蔵寺駅内のアスティ高蔵寺市民コーナーでポスター配布、チラシ配架	広報春日井各号の配布部数 JR勝川駅 25部 JR春日井駅 40部 JR神領駅 120部 JR高蔵寺駅 160部	広報春日井各号の配布部数 JR勝川駅 30部 JR春日井駅 40部 JR神領駅 130部 JR高蔵寺駅 130部	町内会未加入世帯等で広報春日井の入手が難しい市民に対し、広報を入手する機会を提供することができた。	B

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
JR春日井駅自由通路 展示コーナー 【かすがい市民文化財 団】	自由通路にある展示 コーナーで、特製の巨 大ポスターを掲示し、 文化財団の自主事業 等をPR	イベントカレンダー 2か月ごと に更新 各事業をPRする巨大ポスター を作成・掲示	イベントカレンダー 2か月ごと に更新 「松竹大歌舞伎」や「浅田政志 写真展」等をPRする巨大ポス ターを作成・掲示	市の玄関口であるJR春 日井駅にて文化情報を発 信することができた。 巨大ポスターは2～3枚を 連結させるデザインのも のを作成し、PR効果の向 上を図ることができた。	B

(2) 新しい情報媒体の開拓・活用

ア インターネットを活用した双方向コミュニケーションの促進

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
市政情報サービス 【広報広聴課】	市民に必要な情報を 迅速に提供するため、 市ホームページ・モバ イルサイト、SNSを活 用して情報を提供	・市公式スマートフォンアプリ 「春ポケ」での情報発信開始 ・市公式LINEお友達登録件数 3,995件（前年度比510件 増） ・市公式Twitterフォロワー数 1,696（前年度比338増）	・市公式LINEお友達登録件数 5,177件（前年度比1,182件 増） ・市公式Twitterフォロワー数 2,083（前年度比387増）	インターネットを活用し、 様々な手法で情報発信す ることができた。	B

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化財団情報発信事業 【かすがい市民文化財団】	文化財団の実施事業や、文化フォーラム春日井・市民会館の情報提供	・文化財団公式Twitterで、最新の情報を発信 ・文化財団公式Twitterフォロワー数956 ・公演に出演のアーティスト等との相互交流を実施	・文化財団公式Twitterで、最新の情報を発信 ・文化財団公式Twitterフォロワー数1,060(前年度比104件増) ・公演に出演のアーティスト等との相互交流を実施	インターネットを活用し、様々な手法で情報発信することができた。	B

イ 民間情報誌等を活用した文化イベント情報の発信

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化財団広告宣伝事業 【かすがい市民文化財団】	文化財団の活動に“認知・理解・支援”を得るため、新聞・テレビ等への露出を図り、文化財団のPRを実施	記事掲載：中日新聞40回、朝日新聞8回、毎日新聞1回、読売新聞1回、テレビ1回、ラジオ2回、ケーブルテレビ11回、雑誌タウン誌25回 広告掲載：中日新聞3回、雑誌1回 新聞折込：朝日新聞(市外近郊)1回	記事掲載：中日新聞52回、朝日新聞6回、中日スポーツ1回、毎日新聞1回、読売新聞1回、ラジオ3回、ケーブルテレビ2回、雑誌タウン誌50回、Webメディア3回 広告掲載：中日新聞3回、フリーペーパー1回 チラシ折込：ポトス(市内)1回	生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会の指揮者茂木大輔や、「レニングラード・ホテル」出演のバレエダンサー首藤康之の名古屋キャンペーンを実施し、文化財団の事業について、新聞やラジオで告知を行い、集客につなげることができた。	B

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
道風記念館展示 【道風記念館】 《再掲》	道風記念館の施設及び事業をPRするため、情報を発信	記事掲載：中日新聞9回、朝日新聞9回、読売新聞3回、茶華道新聞6回、ケーブルテレビ1回、雑誌13回 広告掲載：雑誌3回、読売新聞1回	記事掲載：中日新聞8回、朝日新聞10回、読売新聞2回、茶華道新聞6回、テレビ愛知1回、ケーブルテレビ2回、雑誌19回 広告掲載：雑誌3回、読売新聞1回	道風記念館について、新聞や雑誌等で告知を行い、道風記念館を幅広くPRすることができた。	B

ウ 近隣自治体、民間文化施設等との連携による情報発信の推進

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化財団情報発信事業 【かすがい市民文化財団】	文化財団の実施事業や、文化フォーラム春日井・市民会館の情報提供	文化財団情報誌「FORUM PRESS」を始めとする広報物を県内160施設、県外90施設に配布 美術系事業の広報物は、公共施設だけでなく民間のギャラリーにも配布(相互に依頼) 名古屋市文化振興事業団と連携し、相互に友の会会員への発送物に、双方の事業のチラシを同封 近隣ホールで開催の類似ジャンルの公演にて、自主文化事業の広報物を折り込み(相互に依頼)	文化財団情報誌「FORUM PRESS」を始めとする広報物を県内331施設、県外50施設に配布 美術系事業の広報物は、公共施設だけでなく民間のギャラリーにも配布(相互に依頼) 名古屋市文化振興事業団と連携し、相互に友の会会員への発送物に、双方の事業のチラシを同封 近隣ホールで開催の類似ジャンルの公演にて、自主文化事業の広報物を折り込み(相互に依頼)	近隣の文化施設と連携することで、幅広い情報を、来館者・友の会会員・公演の鑑賞者に提供することができた。 配布先について、県外を減らし、県内中心とするよう見直しを行い、より効率的な情報発信を行うことができた。	B
道風記念館展示 【道風記念館】 《再掲》	道風記念館の施設及び事業について、PRを実施	展覧会チラシ・ポスターを始めとする広報物を県内141施設、県外403施設に配布 かすがい市民文化財団が市民会館等で開催する公演の際に、展示作品を紹介する広報物を折り込み	展覧会チラシ・ポスターを始めとする広報物を県内141施設、県外403施設に配布 かすがい市民文化財団が市民会館等で開催する公演の際に、展示作品を紹介する広報物を折り込み	近隣の文化施設と連携することで、幅広い情報を、来館者・友の会会員・公演の鑑賞者に提供することができた。	B

評価指標に基づく実績

成果指標	現状値	目標値		実績値	
	2016年度	2021年度	2018年度	2018年度	2019年度
市が情報発信の充実に力を入れていくべきと考える人の割合	43.0%	35.0%	25.0%	2021年度に測定	2021年度に測定

施策ごとの評価

事業の評価	特記事項
<p>A 計画以上の成果が得られた</p> <p>B 概ね計画どおりの成果が得られた</p> <p>C 成果が得られた事業が多かった</p> <p>D 成果が得られた事業は少なかった</p> <p>E 成果は得られなかった</p>	<p>文化財団情報誌のFORUM PRESSは、事業の宣伝に留まるのではなく、読み手に興味を抱かせるような読み物として楽しめるものとなっており、評価できる。</p> <p>インターネットやSNSを活用したPRについては、社会情勢の変化に応じたものとなるよう、また、知りたい人に届けるためにはどのような手法が有効なのか、引き続き検討していく必要がある。</p> <p>その他、市や文化財団以外の文化活動団体等が実施する事業の情報発信については、生涯学習情報サイト「まなびや選科」があるものの、十分に活用されていないため、地域の文化情報を発信する手法を検討する必要がある。</p>

施策④ 市民による文化活動支援の推進

施策ごとの事業の成果

(1) ボランティア活動の活性化

ア 継続的な文化ボランティア活動の推進、支援

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化ボランティア(市民メセナ活動支援) 【文化・生涯学習課】	市民メセナ活動の一環として文化ボランティアを募集し、活動を支援	文化ボランティア登録者:19名(新規登録者2名、退会者3名、前年比1名減) ボランティアへの活動要請:10回、延べ50人従事 顔合わせ会(総会)1回、定例会11回、教養講座1回 文化ボランティア新規会員募集をPR、2名が加入	文化ボランティア登録者:21名(新規登録者2名、退会者なし、前年比2名増) ボランティアへの活動要請:8回、延べ43人従事 顔合わせ会(総会)1回、定例会8回、教養講座1回、自主企画「かすがい短歌」作品募集(※表彰式は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)、文化探訪(志段味古墳ミュージアム) 文化ボランティア新規会員募集をPR、2名が加入	顔合わせ会(総会)や定例会を開催し、ボランティアの相互交流を図ることができた。また、新規会員の相互交流を促すことができた。また、新規会員の募集を行い、新たな会員の募集を迎えることができた。自主企画として「かすがい短歌」を企画し、作品募集・審査を実施。表彰式は中止となったが、3年ぶりに自主企画を実施することができた。文化探訪では、他市のボランティア活動を見学。多くの参加者があり、会員同士の交流を深めることができた。	B ボランティア会員は高齢化しているが、新規会員の募集を継続的に迎えることができ、活動要請に対応することができる。自主企画や文化探訪で、会員同士の交流が深まった点も評価できる。

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化財団サポーター 【かすがい市民文化財団】	来場者をもてなすボランティアとして、文化財団自主事業に参加（フロントスタッフ）公演を鑑賞し、観客目線での公演レポートを執筆し、公開（FORUM PRESSレポーター）	・フロントスタッフ40人 （前年比3名増、新規登録者5名、退会者2名） 活動公演数28回、活動展覧会数2回、研修等3回 ・FORUM PRESSレポーター17人 （前年比増減なし、新規登録者3名、退会者3名） 活動公演数18回、研修等6回 紙面掲載記事12本、ホームページ掲載記事57本	・フロントスタッフ38人 （前年比2名減、新規登録者1名、退会者3名） 活動公演数29回、活動展覧会数2回、研修等2回 ・FORUM PRESSレポーター12人 （前年比5名減、新規登録者なし、退会者5名） 活動公演数22回、研修等2回 紙面掲載記事12本、ホームページ掲載記事22本	フロントスタッフの活動は16年目を迎えた。年間を通して活動しており、継続的な活動ができた。 FORUM PRESSレポーターが観客目線での感想を寄せることで、より客観的な文化財団の事業展開に寄与することができた。	B

イ 市民が企画、運営する文化事業の支援

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化ボランティア（市民メセナ活動支援） 【文化・生涯学習課】 《再掲》	市民メセナ活動の一環として文化ボランティアを募集し、活動を支援	文化ボランティア登録者：19名（新規登録者2名、退会者3名、前年比1名減） ボランティアへの活動要請：10回、延べ50人従事	文化ボランティア登録者：21名（新規登録者2名、退会者なし、前年比2名増） ボランティアへの活動要請：8回、延べ43人従事	例年活動要請のある団体など、市民の文化活動を支援するボランティア活動を行うことができた。	B

ウ 文化ボランティアによる自主企画イベントの開催

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化ボランティア(市民メセナ活動支援) 【文化・生涯学習課】 《再掲》	市民メセナ活動の一環として文化ボランティアを募集し、活動を支援	文化ボランティア登録者:19名(新規登録者2名、退会者3名、前年比1名減) 顔合わせ会(総会)1回、定例会11回、教養講座1回	文化ボランティア登録者:21名(新規登録者2名、退会者なし、前年比2名増) 顔合わせ会(総会)1回、定例会8回、教養講座1回、自主企画「かすがい短歌」作品募集(※表彰式は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)、文化探訪(志段味古墳ミュージアム)	自主企画として「かすがい短歌」を企画し、作品募集・審査を実施。表彰式は中止となったが、3年ぶりに自主企画を実施することができた。 文化探訪では、他市のボランティア活動を見学。多くの参加者があり、会員同士の交流を深めることができた。	B 自主企画や文化探訪を実施することができ、評価できると考えている。

(2) 市民メセナ基金の活用

ア 市民メセナ基金を活用する事業を通じた情報発信、認知度向上

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化ボランティア(市民メセナ活動支援) 【文化・生涯学習課】	市民メセナ活動の一環として文化ボランティアを募集し、活動を支援	文化ボランティア登録者:19名(新規登録者2名、退会者3名、前年比1名減) ボランティアへの活動要請10回、延べ50人従事	文化ボランティア登録者:21名(新規登録者2名、退会者なし、前年比2名増) ボランティアへの活動要請8回、延べ43人従事	ボランティア活動時に、主催者と来場者に市民メセナについてPRし、基金への寄附を募ることで認知度の向上を図ることができた。 4事業で31,926円の寄附があった。	A ボランティアが活動した4事業の出演者・鑑賞者から寄附があったことは、大きな成果と考えている。
あ〜とふるマイタウン(芸術家等派遣事業) 【文化・生涯学習課】 《再掲》	書、伝統芸能に関する芸術家を公民館や学校等の身近な施設に派遣	実施プログラム9、実施回数21回(前年度比2回減)	実施プログラム5、実施回数12回(前年度比9回減)	事業実施時に、参加者に市民メセナについてPRし、基金への寄附を募ることで認知度の向上を図ることができた。 6事業で54,258円の寄附があった。	A 6事業の鑑賞者から寄附があったことは、大きな成果と考えている。
かすがいどこでもアート・ドア(アウトリーチ事業) 【かすがい市民文化財団】 《再掲》	学校や保育園、福祉施設などにアーティストを派遣し、特別授業やコンサートを実施	派遣アーティスト5名、実施回数12回(前年度比2回減)	派遣アーティスト6組18名、実施回数13回(前年度比1回増)	事業実施時に、参加者に市民メセナについてPRし、基金への寄附を募ることで認知度の向上を図ることができた。 4事業で44,968円の寄附があった。	A 4事業の鑑賞者から寄附があったことは、大きな成果と考えている。

イ 市民メセナ基金の運用方法の検討

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
市民メセナ基金積立 【文化・生涯学習課】	市民や企業等からの寄附金の受け皿となるとともに、マッチングギフト方式を採用し、市が寄附と同額を積み立て	<p>・あ〜とふるマイタウン、文化ボランティア活動に拠出。</p> <p>○寄附14,430円</p> <p>○マッチングギフト(市負担)14,430円</p> <p>○基金利子668円</p> <p>前年度末基金現在高8,171,473円</p> <p>今年度積立額29,548円</p> <p>今年度取崩額551,718円</p>	<p>・あ〜とふるマイタウン、文化ボランティア活動、かすがいどこでもアート・ドアに拠出。</p> <p>○寄附2,131,152円</p> <p>○マッチングギフト(市負担)231,152円</p> <p>○基金利子817円</p> <p>前年度末基金現在高7,649,283円</p> <p>今年度積立額2,363,121円</p> <p>今年度取崩額612,966円</p>	今年度より文化財団が実施するかすがいどこでもアート・ドアにも拠出した。積極的なPRの結果、市民メセナ基金を拠出して3事業への参加者から合計131,152円の寄附があった。また、故人より200万円の寄附があったため、取崩額以上の金額を積み立てることができた。	A 積極的なPRの結果、市民から多額の寄附を得ることができたことは、大きな成果と考えている。

評価指標に基づく実績

成果指標	現状値	目標値		実績値	
	2016年度	2021年度	2026年度	2018年度	2019年度
文化ボランティアの登録者数	23人	25人	28人	19人	21人

< 参考 >	基準値	実績値	
	2016年度	2018年度	2019年度
文化財団サポーター（フロントスタッフ及びFORUM PRESSレポーター）の登録者数	53人	57人	50人

施策ごとの評価

事業の評価	特記事項
A 計画以上の成果が得られた	<p>文化ボランティア及び文化財団サポーターの活動が継続的に行われており、ボランティアを辞める会員がある一方、新規登録者がある点は評価できる。引き続き、文化ボランティア及び文化財団サポーターの活動が継続的に行われ、市民の文化活動を支える取り組みが広がることが望まれる。</p> <p>市民メセナ基金活用事業において、寄附を募るためのPRが強化され、事業の参加者より寄附があった点は大きい評価できる。</p> <p>今後も、市民メセナ基金について、永続的な運用ができるよう、理解を広める活動の継続が重要である。</p>
B 概ね計画どおりの成果が得られた	
C 成果が得られた事業が多かった	
D 成果が得られた事業は少なかった	
E 成果は得られなかった	

施策⑤ 文化が育つ拠点施設の充実

施策ごとの事業の成果

(1) 文化活動の魅力を引き出す施設運営

ア より幅広い利用形態に対応する文化施設運営

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化フォーラム春日井、 市民会館貸館 【かすがい市民文化財 団】	文化フォーラム春日井 諸室及び市民会館施 設の貸出	・文化フォーラム春日井： 1,558件、125,073人(前年 度比29件減、12,262人減) (内訳:ギャラリー40件 38,003人、視聴覚ホール 271件29,338人、会議室 363件9,921人、文化活動 室288件6,477人、和室 141件1,164人、交流アトリ ウム455件21,029人、その 他19,141人) ・市民会館:133件86,659人 (前年度比35件減、19,002 人減) ※音響照明等改修のため、 12~3月休館	・文化フォーラム春日井： 1,554件、113,197人(前年 度比4件減、11,876人減) (内訳:ギャラリー39件 34,113人、視聴覚ホール 265件26,727人、会議室 327件8,609人、文化活動 室258件5,711人、和室 135件1,177人、交流アトリ ウム530件20,692人、その 他16,168人) ・市民会館:181件99,669人 (前年度比48件増、13,010 人増)	両施設とも、利用者アン ケートでの利用満足度は 高く、市民にとって使いや すい施設を提供すること ができた。 ※新型コロナウイルス感 染症拡大防止のため、3 月は各施設の利用の自 粛を要請したため、利用 者は減少した。	B 新型コロナウイルス 感染症について、利 用者の安心・安全を 図るため必要な対 策を取っていく必要 がある。 利用目的を文化芸 術に限定している文 化フォーラム春日井 の運営方法につい ては、引き続き検討 していく。

イ 施設利用者の意見に基づく運営方法の改善

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化フォーラム春日井、 市民会館貸館 【かすがい市民文化財 団】 《再掲》	文化フォーラム春日井 諸室及び市民会館施 設の貸出	顧客満足度調査(大変満足を +3、大変不満-3と数値化して 平均値を算出) ・文化フォーラム春日井・視聴 覚ホール2.24、ギャラリー 2.17 ・市民会館 2.30 利用者アンケートの裏面に、 ギャラリーの施設利用サー ビスの改善点を掲載 ①市役所入口に看板設置、 ②展示備品のリニューアル、 ③貸出グッズの改善、④打 合せ書の改訂、⑤バックヤ ードに看板設置	顧客満足度調査(大変満足を +3、大変不満-3と数値化して 平均値を算出) ・文化フォーラム春日井・視聴 覚ホール2.17、ギャラリー 2.30 ・市民会館 2.36 利用者アンケートの裏面に、 施設利用サービスの改善点 を掲載 ①VR市民会館の導入、② 市民会館ロビーに大型モニ ター設置、③ギャラリーの使 いやすさ向上(ワイヤー収 納棚設置、西日対策用ロー ルカーテンの設置など)	両施設とも、利用者アン ケートでの利用満足度は 高く、市民にとって使いや すい施設を提供すること ができた。 改善点を明示すること で、利用者の理解を深め ることができた。	B

(2) 文化施設の整備

ア 東部市民センター施設の活用

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
東部市民センター貸館 【東部市民センター】	ホールや公民館、集会室施設の貸出	図書室が移転した3階フロアを全面改修し、平成31年2月にセミコンサート・リハーサル室、音楽室、多目的室等を新たに整備した。 東部市民センター2,308件、72,195人 内訳:集会室660件17,287人、公民館1,460件19,748人、ホール188件35,160人	東部市民センター2,920件、73,238人 内訳:集会室1,149件23,858人(前年度比489件増、6,571人増)、公民館1,611件21,074人(前年度比151件増、1,326人増)、ホール160件28,306人(前年度比28件減、6,854人減)	地域住民の日常生活に寄り添った、東部地区の地域の拠点の生涯学習施設として、地域住民に活動の場を提供することができた。 集会室は約70%の利用率となったが、平成30年度に整備した諸室の利用率は50%に届かなかった。	B ただし、平成30年度に整備した諸室の利用率を上げる方策の検討が必要と考えている。

イ 安全、快適に利用できる文化施設の整備、管理

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化フォーラム春日井、 市民会館貸館 【かすがい市民文化財 団】 《再掲》	文化フォーラム春日井 及び市民会館の改 修・修繕等を実施	・文化フォーラム春日井:交流 アトリウム強化ガラスに使用 されている飛散防止フィルム貼 替 ・市民会館:舞台照明・音響設 備、空調設備、給水管等の更 新※平成30年12月～平成31 年3月工事のため休館	・文化フォーラム春日井:非常 用発電機部品取替修繕、中央 監視装置更新工事ほか ・市民会館:動力分電盤改修工 事ほか	経年劣化に対応するた め、修繕・改修工事を実 施し、施設利用者の安全 性・快適性を高めること ができた。 公共施設個別施設計画 を策定し、計画的な整備・ 管理を行うための基盤を 整備することができた。	B

ウ 文化財関連施設等の保守、管理

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化財の保護・調査 【文化財課】	史跡等文化財の地元 保存団体等への清掃 業務委託 文化財説明看板の保 守・管理	・二子山古墳始め史跡等清掃 業務委託 9団体 ・文化財説明看板修繕 3件	・二子山古墳始め史跡等清掃 業務委託 9団体 ・文化財説明看板設置・修繕 3件	地元保存団体や民間業 者に清掃等を委託して史 跡等文化財の適切な管 理・保管状況を維持する ことができた。	B

評価指標に基づく実績

成果指標	現状値	目標値		実績値	
	2016年度	2021年度	2026年度	2018年度	2019年度
市の文化施設が充実していると考える人の割合	28.8%	30.0%	35.0%	2021年度に 測定	2021年度に 測定

施策ごとの評価

事業の評価	特記事項
A 計画以上の成果が得られた	<p>文化フォーラム春日井、市民会館とも、利用者アンケートからみると利用満足度は高く、評価できる。ただし、文化フォーラム春日井では利用者数が減少傾向にあるため、利用目的を文化芸術に限定している現状を改めるなど、早急に対応策をとる必要がある。</p> <p>文化財は、概ね適切な管理・保管状況が保たれており、評価できる。引き続き適切な管理・保管が必要である。</p>
B 概ね計画どおりの成果が得られた	
C 成果が得られた事業が多かった	
D 成果が得られた事業は少なかった	
E 成果は得られなかった	

基本目標2 特色ある「春日井文化」の継承・創造

施策⑥ 特色ある文化の推進

施策ごとの事業の成果

(1) 「書のまち春日井」の推進

ア 書の魅力を紹介する文化事業の充実

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
小野道風公奉賛全国書道展覧会(道風展) 【文化・生涯学習課(運営委員会に事業委託<事務局:かすがい市民文化財団>) 《再掲》	書作品を全国から公募し、春日井市で生まれたと伝えられる小野道風の偉業を顕彰するとともに、展覧会を開催	第70回展10月28日(日)～11月4日(日) 出品数:一般部340点、学生部(高校生以下)5,981点、計6,321点(前年度比178点減)、鑑賞者:5,017人(前年度比162人減) 会場:市役所10～12階、文化フォーラム春日井・ギャラリー、道風記念館、愛知県美術館ギャラリー、グルッポふじとう、西部ふれあいセンター、庁舎 出品資格:制限なし(出品料有料)	第71回展10月27日(日)～11月4日(月・休) 出品数:一般部289点、学生部(高校生以下)5,630点、計5,919点(前年度比402点減)、鑑賞者:4,195人(前年度比882人減)、新たにインターネット上でVR展を実施:1,037アクセス 会場:名古屋展(愛知県美術館ギャラリー)を廃止、春日井駅(学生半紙の部特別賞受賞作品)<新規> 出品資格・出品料:変更なし	出品案内を全国の高校・大学、書関連美術館に配布するなど「書のまち春日井」を全国発信するとともに、高いレベルの作品が数多く寄せられ、書道文化の振興を図ることができた。 鑑賞者減少対策もあり、新たにVR展を実施。遠方の出品者など来場しづらい方にも鑑賞機会を提供することができた。 市の玄関口であるJR春	B ただし、出品数が減少傾向にあるので、新規出品者を呼込む方策が必要と考えている。

				日井駅で展示を行うことで、鑑賞機会の提供と共に「書のまち春日井」をPRすることができた。	
--	--	--	--	--	--

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
道風記念館展示 【道風記念館】 《再掲》	小野道風の偉業を顕彰し後世に伝えるとともに、書専門の美術館として、様々な展覧会を開催	年間観覧者数8,652人(前年比988人減) 特別展「琉球の書」鑑賞者489人 企画展「没後30年坪井正庵かな作品展」鑑賞者1,383人	年間観覧者数7,467人(前年比1,185人減) 特別展「川谷尚亭の書」729人(前年度比240人増) 企画展「黒野清宇の書」1,167人(前年度比216人減)	毎回異なったテーマを設け、すべての展示を自主企画し、専門家から高評価を得る質の高い展覧会を継続開催することができた。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、館蔵品展を会期中で終了したこともあり、年間観覧者が減少した。	B

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
道風の書臨書作品展 【道風記念館】 《再掲》	三跡(小野道風、藤原佐理、藤原行成)の書を課題とし、臨書作品を全国から公募 開館以来継続して展覧会を開催	第37回展 1月11日(金)～20日(日) 出品数:一般部/白氏詩巻252点、秋萩帖265点 高校生の部/智証大師諡号勅書2,894点、継色紙243点 合計3,654点(前年比197点減) 鑑賞者:356人 会場:道風記念館 出品資格 制限なし(出品料、表装料無料)	第38回展 1月10日(金)～19日(日) 出品数 一般部/屏風土代255点、伊予切282点 高校生の部 屏風土代2,766点、本阿弥切245点 合計3,548点(前年比106点減) 鑑賞者:348人(前年比8人減) 会場:変更なし 出品資格・出品料:変更なし	小野道風を始めとした三跡の和様の書を学び、鑑賞する機会を提供することで、小野道風の顕彰を行うことができた。 全国各地から応募があり、広く「書のまち春日井」を発信することができた。	B
県下児童生徒席上揮毫大会 【小野道風公遺徳顕彰会 (事務局:小野小学校)】	昭和11年(1936)に始まった揮毫大会 用紙が2枚だけ配布され、制限時間25分間で行われる 「用意、ドン」と始まるため「小野の競書会」とも呼ばれている	第83回大会 10月27日(土)、会場 小野小学校 参加者 783人、90校 参加資格 愛知県内の小中学校推薦児童・生徒(各学年2人)(参加料無料) 表彰式・作品展 12月1日(土)、小野小学校体育館 運営には、小野小学校区協力委員、小野小学校PTA、中部中学校おやじの会、春日井市文化ボランティアの会が協力	第84回大会 10月26日(土)、会場 小野小学校 参加者 782人、91校(前年度比1人減、1校増) 参加資格等は前年度と同じ 表彰式・作品展 11月30日(土)、小野小学校体育館 優秀作品展示 12月20日(水)～1月5日(日)、道風記念館 運営は前年度と同じ	春日井市内だけではなく、愛知県内の多くの学校から参加者があり、小中学生に作品を制作する機会を提供するとともに、小野道風の顕彰を行うことができた。	B

イ 書を通じた自治体間交流の推進

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
道風記念館展示 【道風記念館】 《再掲》	小野道風の偉業を顕彰し後世に伝えるとともに、書専門の美術館として、様々な展覧会を開催	特別展「琉球の書」では、沖縄県立美術館等より貴重な作品を借用。関連企画では、沖縄の古典音楽・舞踊の鑑賞会を開催 次年度開催の特別展に向けて、高知県安芸市在住の所蔵者等に協力を仰ぎ、展覧会の企画を立案した	特別展「川谷尚亭」では、高知県安芸市在住の所蔵者等に協力を仰ぎ、展覧会の企画を立案した。	近隣だけではなく遠方の自治体と協力することで、質の高い展覧会を開催することができた。	B

ウ 春日井まつり等の市民交流事業での書の魅力の発信

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
春日井まつり 【市民活動推進課】	市庁舎周辺で、小野道風に因んだ書道パフォーマンスなど春日井の特色ある催しを実施	参加者11,800人(690団体)、観覧者251,000人 ・「Kasugai ザ 道風」(書道パフォーマンス) ・「道風平安朝行列」(小野道風を中心とした雅な雰囲気の流れ)などが参加するパレード ・道風くんコーナー(水書道体験コーナー、道風くんグッズ販売)	参加者11,000人(600団体)、観覧者200,900人 ・「Kasugai ザ 道風」(書道パフォーマンス) ・「道風平安朝行列」(小野道風を中心とした雅な雰囲気の流れ)などが参加するパレード ・道風くんコーナー(水書道体験コーナー、道風くんグッズ販売)	外部団体と協働し、参加者・観覧者双方に春日井らしさを感じられる貴重な機会を提供することができた。	B

エ パンフレット等による「書のまち春日井」の発信

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
「書のまち春日井」発信 【文化・生涯学習課】	「書のまち春日井」PR パンフレット(一般用) を作成・配布	「書のまち春日井」PRパンフレ ット(一般用)作成 A4サイズ16ページ 初版 10,000部、5,000部増刷 内容:「書のまち春日井」 道風記念館等市内施設、県 内外の書関係美術館等、道 風展表彰式等書関連行事で 配布	「書のまち春日井」PRパンフレ ット(子ども向け)作成 中学年向け「書のまち春日 井と小野道風」:A4サイズ8 ページ 8,000部 高学年向け「調べてみよう! 小野道風」:A4サイズ16ペ ージ 10,000部 小学校教員に協力を仰ぎ、 小学校の書道科授業で活用 できる内容とした	「書のまち春日井」や「小 野道風」について分かり やすくまとめたパンフレッ トを作成し、小学校の書 道科の授業向けに配布 することで、児童や保護 者、教員に「書のまち春 日井」や「小野道風」へ の理解を広げることがで きた。	B

オ マスコットキャラクターの活用

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
「書のまち春日井」発信 【文化・生涯学習課】 《再掲》	商標、着ぐるみの貸し出し、グッズの制作・販売等を実施 「ゆるキャラグランプリ」にエントリーし、市内外にPR	<ul style="list-style-type: none"> ・商標の貸出(印刷物等への道風くんイラスト使用許可) 23件 ・着ぐるみ貸出(町内会等や一般企業へ無料貸出) 105件 ・道風くんグッズ販売 道風記念館や市役所等公共施設、春日井市観光コンベンション協会(JR春日井駅Lirick)、市内書店 ・春日井まつりや市民納涼まつりで市内保育園園児と道風くんが「道風くんのテーマソング」ダンス披露 	<ul style="list-style-type: none"> ・Jリーグ公式戦に合わせて開催された自治体PRイベントに出演 ・VR道風展に出演 ・商標の貸出(印刷物等への道風くんイラスト使用許可) 39件 ・着ぐるみ貸出(町内会等や一般企業へ無料貸出) 81件 ・道風くんグッズ販売 道風記念館や市役所等公共施設、春日井市観光コンベンション協会(JR春日井駅Lirick)、市内書店、勝川駅前商店街 ・春日井まつりや市民納涼まつりで市内保育園園児と道風くんが「道風くんのテーマソング」ダンス披露 	マスコットキャラクター「道風くん」を活用することで、「書のまち春日井」について分かりやすく幅広い世代にPRすることができた。	B

カ 書を気軽に楽しむ講座、講演会等の開催

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
道風記念館講座 【道風記念館】 《再掲》	書の鑑賞の手助けとなり、書への関心と深める講座を開催 特別展等にあわせて講演会やギャラリートークを開催	道風記念館講座「近現代の書の魅力」(全4回) 受講者61人 臨書講座「楷書・行書・草書三体の臨書」(全6回) 受講者47人 一般向けワークショップ「名前を美しく書く」 受講者30人 特別展「琉球の書」 講演会 1回、学芸員による展示品解説 2回 企画展「坪井正庵かな作品展」ギャラリートーク 1回 館蔵品展「書体の変遷Ⅱ」学芸員による展示品解説 4回 館蔵品展「書の魅力」学芸員による展示品解説 4回 館蔵品展「近現代の書」学芸員による展示品解説 4回	臨書講座「篆書・隸書の臨書」(全6回) 受講者57人 特別展「川谷尚亭」 講演会 1回、ギャラリートーク 1回、初心者向け展示品解説 1回 企画展「黒野清字の書」ギャラリートーク 1回 館蔵品展「近現代の書」学芸員による展示品解説 4回 館蔵品展「書の魅力」学芸員による展示品解説 4回 館蔵品展「読んで味わう書の世界」学芸員による展示品解説 2回(※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部中止)	書への関心を深める機会を提供することができた。	B

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
公民館・ふれあいセンター講座 【各公民館、各ふれあいセンター】	公民館、ふれあいセンターで講座を開催	中央公民館 1講座(全8回) 受講者20人、1講座(全4回) 受講者10人 知多公民館 1講座(全8回) 受講者12人 坂下公民館 2講座(全8回) 受講者48人 東部公民館 1講座(全6回) 受講者16人 南部ふれあいセンター 1講座 (全6回) 受講者25人	中央公民館 1講座(全8回) 受講者20人、1講座(全4回) 受講者16人 知多公民館 1講座(全8回) 受講者14人、1講座(全3回) 受講者19人 坂下公民館 1講座(全2回) 受講者14人 東部公民館 1講座(全6回) 受講者20人 南部ふれあいセンター 1講座 (全8回) 受講者30人	地域に身近な施設で書への関心を深める機会を提供することができた。	B

(2) 自分史のまちづくりの推進

ア 自分史の魅力を紹介する文化事業の充実

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
自分史事業 【かすがい市民文化財 団】	「日本自分史センター」を拠点に、自分史相談、自分史講座、公募自分史事業などを実施	・「演劇×自分史プロジェクト」 (平成29年度～令和元年度) 市民向けワークショップ 17回 19名・延べ683人参加 ワークショップ成果披露公演 (有料) 2回 鑑賞者267名 ・自分史相談 毎週火・金曜日 午後、相談無料 ・自分史講座①エッセイ講座 (全10回) 受講者20人、②大人のための文章講座(全6回) 受講者16人	・「演劇×自分史プロジェクト」 (平成29年度～令和元年度) 市民向けワークショップ 21回 25名・延べ554人参加 ※ワークショップ成果披露公演 (有料)は新型コロナウイルス 感染症拡大防止のため、中止 ・自分史相談 毎週火・金曜日 午後、相談無料 ・自分史講座 エッセイ講座 (全10回) 受講者19人	自分史と演劇のコラボレーションにより、これまで自分史を知らなかった層にもPRする機会を創出することができた。 これまでは60代の以上参加者が多かったが、10代、20代の参加者も増え世代間交流も生まれた。 自分史相談や講座により、自分史を書きたい人々の支援をすることができた。	B 参加者の輪が広がっている点が成果であるが、それだけでなく、地元で活動しているアーティストの活動できる環境づくりと、彼らのスキルアップを図ることができた点も大きな成果と考えている。

イ 自分史の活動を行う団体等の支援

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化フォーラム春日井、 市民会館管理 【文化・生涯学習課】 《再掲》	定期的に活動している自分史サークルに対し、活動認定を行い、施設使用料を減免	自分史サークル7団体を自分史活動団体として認定(受付期間前の施設予約、施設の減免利用、印刷機等の無償利用を認めている)	自分史サークル7団体を自分史活動団体として認定(受付期間前の施設予約、施設の減免利用、印刷機等の無償利用を認めている)	自分史サークルが継続的に活動できるよう、施設利用の面で活動を支援することができた。 1団体が高齢化のため、年度途中で解散した。	B

ウ 全国からの自分史作品の収集、公募

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
自分史事業 【かすがい市民文化財団】 《再掲》	「日本自分史センター」を拠点に、自分史相談、自分史講座、公募自分史事業などを実施	<ul style="list-style-type: none"> ・自分史センターへの作品寄贈 80タイトル ・蔵書8,120タイトル 書籍の貸出 76冊 ・自分史センターだけではなく、文化情報プラザに書架を設置し、自分史書籍を配架 ・第16回掌編自分史全国公募「旅に遊び 旅に学ぶ」応募作品 154作品、優秀作品を掲載した作品集を刊行 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分史センターへの作品寄贈 71タイトル ・蔵書8,191タイトル 書籍の貸出 80冊 ・蔵書を整理し、文化情報プラザの書架を充実させた ・第17回掌編自分史全国公募「恋した わたし」では、演劇×自分史との事業連携させた。応募作品 210作品(前年度比56作品増)、優秀作品を掲載した作品集を刊行 	自治体設置の自分史専門図書館としては、全国唯一の施設として、自分史作品の収集を進めることができた。 自分史作品を公募し、作品集を刊行。より多くの応募を目指して、テーマを設定し、応募規定を変更した結果、若い世代の大幅増につながった。書き手だけでなく、読み手の創出を図ることができた。	A 掌編自分史全国公募は、テーマ設定や規定の工夫により、9年ぶりに応募作品数が200点を超えた。中高生からの応募もあり、大きな成果があったと考えている。

エ インターネット等を活用した日本自分史センターの事業展開

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
自分史事業 【かすがい市民文化財団】 《再掲》	「日本自分史センター」を拠点に、自分史相談、自分史講座、公募自分史事業などを実施	<ul style="list-style-type: none"> ・自分史センターへの寄贈された作品リストを文化財団ホームページに掲載 ・第16回掌編自分史全国公募「旅に遊び 旅に学ぶ」応募作品154作品、優秀作品を掲載した作品集を刊行、メールによる応募を新たに受け付けることとし、これまで応募のなかった県や若い世代からの応募が増加した 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分史センターへの寄贈された作品リストを文化財団ホームページに掲載 ・第17回掌編自分史全国公募「恋した わたし」応募作品210作品、優秀作品35点を掲載した作品集を刊行。メール応募を積極的にPRし、応募規定を変更するなど、より多くの方に気軽に応募してもらうよう工夫した結果、中高生など若い世代からの応募が増加した 	市民に限らず遠方の居住者にも日本自分史センターの自分史事業の情報を発信し、全国的に認知度の向上を図ることができた。	B

評価指標に基づく実績

成果指標	現状値	目標値		実績値	
	2016年度	2021年度	2026年度	2018年度	2019年度
小野道風公奉賛全国書道展覧会(道風展)への応募作品数	6,458点	6,700点	7,100点	6,321点	5,919点
自分史講座の受講者数	53人	60人	70人	36人	19人

< 参考 >	基準値	実績値	
	2016年度	2018年度	2019年度
小野道風公奉賛全国書道展覧会(道風展)の鑑賞者数 (うちVR展のアクセス数)	5,778人 (未実施)	5,017人 (未実施)	5,232人 (1,037アクセス)
自分史事業(自分史センター利用、公募自分史出品、自分史講座、演劇×自分史プロジェクト)への参加者数	631人	1,326人	1,258人

施策ごとの評価

事業の評価	特記事項
<p>A 計画以上の成果が得られた</p> <p>B 概ね計画どおりの成果が得られた</p> <p>C 成果が得られた事業が多かった</p> <p>D 成果が得られた事業は少なかった</p> <p>E 成果は得られなかった</p>	<p>書と自分史は春日井市が文化振興施策の柱としている取り組みであり、引き続きその魅力を広く発信していくことが望まれる。</p> <p>「演劇×自分史プロジェクト」は3年目を迎え、幅広い世代が参加し、世代間の交流も生み出しており、一定の効果があつたと評価できる。</p> <p>書については、初心者や子ども達を対象とした取り組みが継続されており、評価できる。</p> <p>一方、道風記念館の年間観覧者数7,467人と、前年と比較し1,185人減少した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月は館蔵品展を中止した点を考慮しても、来館者数の減少は問題であり、新たな来館者を呼び込む方策を検討する必要がある。</p> <p>また、「書のまち春日井」を広めていくためには、道風記念館を核とした事業展開を継続するとともに、市内の様々な施設でも書について学び体験する機会を提供したり、市外から訪れた人々に「書」や「小野道風」について知ってもらう機会を創出するなど、幅広い展開が今後の課題である。</p>

施策⑦ 文化財・伝統文化の保存・継承・活用

施策ごとの事業の成果

(1) 文化財の保護・活用

ア 歴史的文化財の調査研究の推進と保護、保存

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化財の保護・調査 【文化財課】 《再掲》	指定文化財所有者等 に対する各種補助金 の交付、文化財の適 切な管理 遺跡の発掘調査、出 土遺物や民俗資料の 調査・整理	<ul style="list-style-type: none"> ・「小木田の棒の手」用具購入補助、「密蔵院建造物」火災報知器設置等補助など13件 ・文化財防火デーに合わせ、密蔵院にて防火訓練を行い、市内各所に保存・保管されている指定文化財の防火デー巡視を実施 ・桜佐下五反田遺跡発掘調査 ・市内遺跡調査概要報告刊行 ・「高座山第1号墳」発掘調査報告書刊行 ・「茅の輪くぐり」、「総天王祭」聞き取り調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・「内々神社社殿補修」「玉野山車附からくり(からくり人形衣裳復元)」補助など15件 ・文化財防火デーに合わせ、市内各所に保存・保管されている指定文化財の防火査察を実施 ※防火訓練は雨天により中止 ・桜佐上五反田遺跡・熊野西田面遺跡ほか発掘調査 ・熊野桜佐・西部第一・第二土地区画整理事業地内試掘調査 ・市内遺跡調査概要報告刊行 ・「神領第1号墳」発掘調査報告書刊行 ・民俗資料紙台帳のデジタル化 	指定文化財所有者等と連携し、有効に補助金が交付され、文化財の適切な管理・保管状況を維持することができた。発掘調査や民俗・考古資料の整理を実施し、報告書等を刊行することで文化財の記録・保存を進めることができた。	B

イ 文化財を活用した伝統文化の発信事業の開催

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
春日井まつり 【市民活動推進課】	市庁舎周辺で、小野道風に因んだ書道パフォーマンスなど春日井の特色ある催しを実施	<ul style="list-style-type: none"> ・パレードに「道風平安朝行列」、「棒の手」(出川町・小木田・神屋町・大留下棒の手保存会)、「流鏝馬装束」(伊多波刀神社奉納流鏝馬保存会)、神楽(六軒屋郷土芸能保存会、関田神楽保存会)が参加 ・ステージで神楽(松本・両社宮・大留下・伊多波刀神社道行・坂下町神楽保存会、六軒屋郷土芸能保存会)、獅子神楽(外之原中獅子神楽伝承会)が演技披露 ・中央公園で「棒の手」(小木田、出川町、大留下保存会)演舞披露 ・中央公園に「流鏝馬体験コーナー」(伊多波刀神社奉納流鏝馬保存会)設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・パレードに「道風平安朝行列」、「棒の手」(出川町・小木田・神屋町・大留下棒の手保存会)、玉野郷土芸能保存会)、「神楽・流鏝馬装束」(伊多波刀神社道行神楽・伊多波刀神社奉納流鏝馬保存会)、神楽(六軒屋郷土芸能保存会)が参加 ・ステージで神楽(松本・両社宮・大留下・伊多波刀神社道行・坂下町・関田・気噴南神楽保存会、六軒屋郷土芸能保存会)が演技披露 ・市役所庁舎正面玄関入口付近で「棒の手」(小木田、出川町、大留下保存会、玉野郷土芸能保存会)が演舞披露 ・中央公園に「流鏝馬体験コーナー」(伊多波刀神社奉納流鏝馬保存会)設置 	指定文化財を多くの市民に披露することで、普段民俗文化財を目にする機会が少ない市民にも情報発信することができた。	B

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化財の活用 【文化財課】	市民が文化財に親しむ機会として、内津文化財祭やハニワまつりなどの啓発イベントを開催	<ul style="list-style-type: none"> ・内津文化財祭 会場:内々神社 参加者1,000人 ・ハニワまつり 会場:ニ子山公園 参加者9,000人 ・下街道ガイドマップのデジタルパンフレット作成・インターネット配信 	<ul style="list-style-type: none"> ・内津文化財祭 会場:内々神社 参加者800人(前年度比200人減) ・ハニワまつり 会場:ニ子山公園 参加者9,200人(前年度比200人増) ・「下街道ガイドマップ」改訂 ・「文化財ガイド」のデジタルパンフレット作成・インターネット配信 ・「春日井古墳散策マップ」作成 	<p>啓発イベントの開催等によって地元住民を始めとする多くの市民に文化財の重要性と文化財保護の必要性を広くPRすることができた。</p> <p>デジタルパンフレットの配信、動画の制作など、デジタルデータを活用し文化財情報の発信をすることができた。</p>	B

ウ 文化財、民俗資料等に関する展示の充実

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化財の活用 【文化財課】 《再掲》	市民が文化財に親しむ機会として、企画展示等を実施し、展示内容に合わせた講座等を開催	<ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館内 民俗考古展示室 来場者6,157人 「春日井古墳散歩」「ひなまつり」など企画展示を6回開催 ・古代史講座(全3回)285人 ・親子体験教室 6回、参加者191人 ・出張展示「なつかしの置き薬」を坂下・鷹来公民館で開催 ・白山神社古墳出土遺物を再整理し、企画展示・パンフレット作成・特別講座(全3回、237人受講)実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館内 民俗考古展示室 来場者5,543人(前年度比614人減) ※3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため閉館 ・「娯楽～昭和編～」 「狩りから稲作へ、の歴史」など企画展示を5回開催 ・古代史講座(全3回)、191人 ・親子体験教室 6回開催 参加者233人(前年度比44人増) ・南東山古墳出土遺物を再整理し、企画展示・パンフレット作成・特別講座(全3回、272人受講)実施 	企画展示に合わせた親子体験教室や講座を開催することで展示に対する理解を深めることができた。	B

エ 文化財ボランティアの活動の推進

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
文化財ボランティアの育成 【文化財課】	貴重な文化財や歴史及び伝統文化を次世代に伝え、文化財保護を啓発する文化財ボランティアを育成	<ul style="list-style-type: none"> ・会員数 43人 ・ステップアップ研修 5回開催 受講者159人 ・養成講座 全2回(4回連続講座)計9人が受講し、7人が文化財ボランティアの会に加入 小学3年生の社会科校外学習対応として、民俗展示室等の説明、市民向けに内々神社等での文化財ガイドに従事 ・ボランティア協働事業「昔のくらし☆体験くらぶ」等開催 ・ボランティア自主事業「文化財探訪ウォーキング」開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・会員数 44人 ・ステップアップ研修 4回開催 受講者122人 ※第5回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 ・養成講座 全2回(4回連続講座)計8人が受講し、6人が文化財ボランティアの会に加入 小学3年生の社会科校外学習対応として、民俗展示室等の説明、市民向けに内々神社等での文化財ガイドに従事 ・ボランティア協働事業「しめ縄をつくろう」を令和元年度より追加 ・ボランティア自主事業「文化財探訪ウォーキング」開催 	<p>養成講座の実施により、40人以上の会員数を維持することができた。</p> <p>また、ステップアップ講座により質の向上を図ることができた。</p> <p>協働事業として、ワークショップ「勾玉をつくろう」「昔のくらし☆探検隊」に加え、令和元年度より「しめ縄をつくろう」を実施。その他、自主事業「文化財探訪ウォーキング」を実施し、活動の活性化を図ることができた。</p>	B

(2) 子どもたちが伝統文化に親しむ機会の提供

ア 子どもたちが伝統文化に触れ、関心を高める機会の提供

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
かすがい文化フェスティバル 【かすがい市民文化財団】 《再掲》	茶華道や和楽器などの伝統文化や工作、書道などを体験できるワークショップを開催	・スペシャルデイ 7月29日 (日)363人 オープニングコンサート 体験講座:茶道、華道、三味線、 琴、大正琴、和太鼓、日本舞踊、 和装、書道など14講座(協力: 文化協会・美術協会)	・スペシャルデイ 7月28日 (日) 352人 オープニングコンサート 体験講座:茶道、華道、三味線、 琴、大正琴、和太鼓、日本舞踊、 和装、書道など13講座(協力: 文化協会・美術協会)	小学生にはなじみの薄い茶華道、日本舞踊などの伝統文化や書などを体験する機会を提供することができた。	B
児童館事業 【子育て子育て総合支援館】	自由に来館し親子で楽しく遊ぶ場所を提供するとともに、各種講座や教室を実施	・来館者66,593人(乳幼児29,925人、小中高生8,002人、大人28,666人) ・遊びつなごう伝承遊び(将棋教室)2回、参加者20人(小学生対象)	・来館者66,491人(乳幼児30,318人、小中高生7,301人、大人28,872人) ・遊びつなごう伝承遊び(将棋教室)2回、参加者17人(小学生対象)	小学生対象に伝統的な遊びである将棋に触れる機会を提供することができた。	B

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
子育て支援、子育て支援事業 【交通児童遊園】	子ども同士や親同士の仲間作りのための出会いの場を提供するため、様々な事業を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援事業 将棋教室4回、小学生16人 キッズ大会・教室 陶芸教室、和太鼓体験教室 ほか9回、小学生延べ110人 ・子育て支援事業 わらべうたベビーマッサージ3回、和太鼓体験教室1回 参加者36人 (乳幼児23人、保護者13人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援事業 将棋教室4回、小学生8人 キッズ大会・教室 陶芸教室、和太鼓体験教室 ほか13回、小学生延べ131人 ・子育て支援事業 わらべうたベビーマッサージ3回、和太鼓体験教室1回 参加者33人 (乳幼児22人、保護者11人) 	小学生や乳幼児とその保護者を対象に、将棋やわらべうたなど伝統的な遊びに触れる機会を提供することができた。	B
郷土芸能保存 【文化財課】	郷土芸能の保存団体と児童が交流できる環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土芸能出前講座 篠木小学校3年生109人と小木田棒の手保存会始め4団体が参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土芸能出前講座 坂下小学校3年生70人と小木田棒の手保存会始め4団体が参加 	郷土芸能出前講座の実施をきっかけに地域の郷土芸能を知ることができた。また、保存団体の交流を促す事業を実施することで団体の協力体制を強化することができた。	B

イ 子どもたちが行う伝統芸能等の発表の場の提供

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
春日井まつり 【市民活動推進課】 《再掲》	市庁舎周辺で、小野道風に因んだ書道パフォーマンスなど春日井の特色ある催しを実施	<ul style="list-style-type: none"> ・パレードに「道風平安朝行列」、「棒の手」(出川町・小木田・神屋町・大留下棒の手保存会)、「流鏝馬装束」(伊多波刀神社奉納流鏝馬保存会)、神楽(六軒屋郷土芸能保存会、関田神楽保存会)が参加 ・ステージで神楽(松本・両社宮・大留下・伊多波刀神社道行・坂下町神楽保存会、六軒屋郷土芸能保存会)、獅子神楽(外之原中獅子神楽伝承会)が演技披露 ・中央公園で「棒の手」(小木田、出川町、大留下保存会)演舞披露 ・中央公園に「流鏝馬体験コーナー」(伊多波刀神社奉納流鏝馬保存会)設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・パレードに「道風平安朝行列」、「棒の手」(出川町・小木田・神屋町・大留下棒の手保存会)、玉野郷土芸能保存会、「神楽・流鏝馬装束」(伊多波刀神社道行神楽・伊多波刀神社奉納流鏝馬保存会)、神楽(六軒屋郷土芸能保存会)が参加 ・ステージで神楽(松本・両社宮・大留下・伊多波刀神社道行・坂下町・関田・気噴南神楽保存会、六軒屋郷土芸能保存会)が演技披露 ・市役所庁舎正面玄関入口付近で「棒の手」(小木田、出川町、大留下保存会、玉野郷土芸能保存会)が演舞披露 ・中央公園に「流鏝馬体験コーナー」(伊多波刀神社奉納流鏝馬保存会)設置 	指定文化財や郷土の芸能の発表に、小中学生等が参加し、多くの市民に披露する機会を提供することができた。	B

評価指標に基づく実績

成果指標	現状値	目標値		実績値	
	2016年度	2021年度	2026年度	2018年度	2019年度
民俗考古展示室の観覧者数	7,130人	7,500人	8,000人	6,157人	5,543人

< 参考 >	基準値	実績値	
	2016年度	2018年度	2019年度
講座等(親子体験教室、古代史講座、特別講座)への参加者数	672人	713人	696人

施策ごとの評価

事業の評価	特記事項
<p>A 計画以上の成果が得られた</p> <p>B 概ね計画どおりの成果が得られた</p> <p>C 成果が得られた事業が多かった</p> <p>D 成果が得られた事業は少なかった</p> <p>E 成果は得られなかった</p>	<p>民俗芸能や伝統文化の保存・継承については、高齢化や後継者不足など、社会的な課題が大きい。そういったなかで、若い世代を担い手として民俗芸能や伝統芸能を保存・継承していくこと取り組みがされている点は、大いに評価できる。</p> <p>その他、文化財担当課の取り組みだけではなく、春日井まつりや子育て支援施設においても、小中校生を始めとする若い世代が、民俗文化財や伝統文化に触れる機会が数多く提供されていることも評価できる。</p> <p>文化財を適切に保存・管理し、後世に継承していくため、調査が継続的に行われていることは評価できる。今後も、調査の成果を広く市民に公開し、理解を広めるためにはこういった手法が適切か、検討していく必要がある。</p>

基本目標3 文化を通じた連携のまちづくり

施策⑧ 分野を超えた連携の推進

施策ごとの事業の成果

(1) 文化芸術と他の分野との連携

ア 地元大学と市、文化財団との連携の強化

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
市民第九演奏会 【文化・生涯学習課(実行委員会に事業委託<事務局:中部大学>)】 《再掲》	合唱及び演奏を行う市民に練習の場と発表の場を提供し、市民手作りの演奏会を開催	2018春日井市民第九演奏会 12月2日(日) 出演者328人(指揮者・ソリスト5人、交響楽団80人、合唱団214人、賛助出演29人)(前年度比3人増)、入場者875人(前年度比85人増)	2019春日井市民第九演奏会 12月8日(日) 出演者308人(指揮者・ソリスト5人、交響楽団81人、合唱団180人、賛助出演42人)(前年度比20人減)、入場者839人(前年度比36人減)	実行委員会の事務局を務める中部大学、市、市民の三者協働により、出演者と鑑賞者に貴重な機会を提供することができた。	B
人形劇フェスティバル 【かすがい市民文化財団】	人形劇フェスティバル実行委員会と共催し、市内外のアマ・プロ人形劇団が合同で公演を実施	12月9日(日)文化フォーラム春日井・視聴覚ホールほか 人形劇公演(有料)出演/愛知県立大学人形劇サークルとびねこ、中部大学子育てすくすく隊等11団体、鑑賞者/334人	12月1日(日)文化フォーラム春日井・視聴覚ホールほか 人形劇公演(有料)出演/愛知県立大学人形劇サークルとびねこ、中部大学子育てすくすく隊等10団体、鑑賞者257人	大学生サークルを含む市内外のアマ・プロ劇団が協働し、親子が参加型で楽しめる機会を提供することができた。	B

イ 商工会議所、商店街等と市、文化財団との連携の強化

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
「書のまち春日井」発信 【文化・生涯学習課】 《再掲》	商標、着ぐるみの貸し出し、グッズの制作・販売等を実施 ゆるキャラグランプリにエントリーし、市内外にPR	・商標の貸出(商品への道風くんイラスト無料使用許可):大相撲春日井場所(座布団やパンフレットに使用) ・着ぐるみの貸出(福祉施設や一般企業へ無料貸出) ・道風くんグッズ 公共施設のほか、春日井市観光コンベンション協会(JR春日井駅Lyric k)、市内書道用品店・書店で委託販売	・商標の貸出(商品への道風くんイラスト無料使用許可):市内企業の名刺等に使用 ・着ぐるみの貸出(福祉施設や一般企業へ無料貸出) ・道風くんグッズ 公共施設のほか、春日井市観光コンベンション協会(JR春日井駅Lyric k)、市内書道用品店・書店で委託販売	商工会議所や民間企業にもマスコットキャラクター「道風くん」を幅広く活用してもらうことができた。	B
友の会事業 【かすがい市民文化財団】	自主事業のチケット先行発売・割引購入が可能な有料会員制度。市内の様々な店舗が提携ショップとなっており、会員サービスを実施	友の会会員(有料)1,172人 提携ショップ39店舗 提携ショップは松竹大歌舞伎・春日井まつり前夜祭などの公演会場で、関連商品の販売なども実施	友の会会員(有料)828人 提携ショップ38店舗 提携ショップは松竹大歌舞伎・夕涼みシネマなどの公演会場で、関連商品の販売なども実施 ミュージカル「忍たま乱太郎」に合わせ、提携ショップや商店街に協力を仰ぎ、遠方から来訪する観客向けにおもてなし企画を実施	市内商店等と提携し、友の会会員に各種サービスを提供することができた。また、提携ショップと協力し、来場者が市内商店の商品を楽しむことができる機会を提供することができた。 おもてなし企画が来場者に大変好評となり、TwitterなどのSNS上で、高評価を受けることができた。	B

ウ 企業・団体等による子どもの芸術鑑賞支援

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
自主文化事業 (鑑賞系事業) 【かすがい市民文化財 団】 《再掲》	年齢や性別、社会的 状況等に関わらず誰 もが芸術を鑑賞でき る機会を提供	東部市民センターで開催した 2公演で地元企業の協賛によ り、小学生以上の親子100組 200人を招待	東部市民センターで開催した 公演で地元企業の協賛によ り、小学生以上の親子50組 100人を招待	地元企業の協賛により、 小学生とその保護者に芸 術鑑賞の機会を提供する ことができた。	B

(2) 幅広い分野での芸術文化の活用の促進

ア 福祉施設、病院等での文化事業の開催

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
まちかどコンサート 【文化・生涯学習課】 <単年度事業> 《再掲》	コンサートグループ 「花の詩」と協働し、市 内各所でコンサートを 開催	市民病院ほかでコンサートを 12回開催、鑑賞者:2,153人、 出演者: 延べ80人	なし (市制75周年記念事業のため)	—	—

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
あ〜とふるマイタウン(芸術家等派遣事業) 【文化・生涯学習課】 《再掲》	書、伝統芸能に関する芸術家を公民館や学校等の身近な施設に派遣 ※音楽分野は、令和元年度より文化財団に移管し、「かすがいどこでもアート・ドア」事業で実施。	実施プログラム9、実施回数21回(前年度比2回減) ＜内訳＞ 音楽:4プログラム12回 書(篆刻を含む):3プログラム3回 伝統芸能(落語・日本舞踊):2プログラム6回	実施プログラム5、実施回数12回(前年度比9回減) ＜内訳＞ 書(篆刻を含む):3プログラム6回(前年度比3回増) 伝統芸能(落語・日本舞踊):2プログラム6回(増減なし)	保育園や小学校、地区社会福祉協議会など26団体から応募があり、市民に鑑賞・体験の機会を提供することができた。 書を体験した園児から「もっと書きたい」との声があがっていた。	B 音楽分野移管は、事業効果を上げるための方策であり、妥当な判断と考えている。
かすがいどこでもアート・ドア(アウトリーチ事業) 【かすがい市民文化財団】 《再掲》	学校や保育園、福祉施設などにアーティストを派遣し、特別授業やコンサートを実施 ※「あ〜とふるマイタウン事業」のうち、音楽分野について、令和元年度より市より移管を受けた。	派遣アーティスト5名、実施回数12回(前年度比2回減) ＜内訳＞ 俳優・演出家3回、文芸(歌人)3回、美術家4回、舞踊(ダンス)1回、音楽(ギター)1回	派遣アーティスト7組19名、実施回数15回(前年度比3回増) ＜内訳＞ 音楽(①三味線2回、②サクソフォン・打楽器3回、③フルート・オーボエ・ピアノ2回、④クラリネット・サクソフォン・ピアノ2回、⑤マリンバ・パーカッション・ピアノ2回、⑥ギター2回)、ダンス2回	文化財団のミッションに基づく普及啓発事業の柱として実施し、幼児や福祉施設の利用者等に芸術を間近で感じられる機会を提供することができた。 文芸と美術分野については、アウトリーチからワークショップへ切り替えたため、地域に身近な会場での機会提供は減少した。	B 市内で活動する若手音楽家5組を派遣しており、アーティストの経験値を上げることができた点も成果と考えている。

イ 文化芸術による地域の絆づくりの推進

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
あ〜とふるマイタウン(芸術家等派遣事業) 【文化・生涯学習課】 《再掲》	書、伝統芸能に関する芸術家を公民館や学校等の身近な施設に派遣 ※音楽分野は、令和元年度より文化財団に移管し、「かすがいどこでもアート・ドア」事業で実施。	実施プログラム9、実施回数21回(前年度比2回減) <内訳> 音楽:4プログラム12回 書(篆刻を含む):3プログラム3回 伝統芸能(落語・日本舞踊):2プログラム6回	実施プログラム5、実施回数12回(前年度比9回減) <内訳> 書(篆刻を含む):3プログラム6回(前年度比3回増) 伝統芸能(落語・日本舞踊):2プログラム6回(増減なし)	保育園や小学校、地区社会福祉協議会など26団体から応募があり、市民に鑑賞・体験の機会を提供することができた。 書を体験した園児から「もっと書きたい」との声があがっていた。	B 音楽分野移管は、事業効果を上げるための方策であり、妥当な判断と考えている。
文化財団情報誌「FORUM PRESS」 【かすがい市民文化財団】 《再掲》	自主文化事業を中心とした芸術文化情報及び施設に関する情報を掲載した情報誌を発行	A4サイズ16ページ フルカラー 隔月(年6回)10,000部 ・自主文化事業に関する情報 ・FORUM PRESSレポーター(ボランティア)による公演感想記「わたしのレポート」 ・春日井に関わる人にインタビューした「あの人と、春日井と」 ・「校歌は地域をうたう」「PiPi提携ショップガイド」などの地域にまつわるコンテンツ	A4サイズ16ページ フルカラー 隔月(年6回)10,000部 ・自主文化事業に関する情報 ・FORUM PRESSレポーター(ボランティア)による公演感想記「わたしのレポート」 ・春日井に関わる人にインタビューした「あの人と、春日井と」 ・「校歌は地域をうたう」「PiPi提携ショップガイド」などの地域にまつわるコンテンツ	これから開催される自主事業に関する情報だけではなく、地域に関わるコンテンツを充実させることで、市民の地域への愛着を醸成する機会を提供することができた。 読者アンケートでも大変好評であり、施設や文化財団の事業についてだけでなく、春日井市の魅力をPRすることができた。	B

評価指標に基づく実績

成果指標	現状値	目標値		実績値	
	2016年度	2021年度	2026年度	2018年度	2019年度
大学や企業、各種団体等と市、文化財団との連携による事業の参加者数	1,546人	1,600人	1,700人	2420人	2,588人

施策ごとの評価

事業の評価	特記事項
A 計画以上の成果が得られた	<p>これからの社会では、文化芸術の分野と福祉、教育、まちづくり、観光、産業などの他分野と連携することが求められている。そういったなかで、地元大学や福祉施設、教育機関、地元企業と協力して事業展開できたことは評価できる。</p> <p>特に中部大学は地域の中で大きな役割を果たしているため、より一層の連携が望まれる。</p> <p>また、他分野と協力・協働し、文化芸術が生み出す効果を活かしていく取り組みが今後より一層望まれるので、具体的な方策を検討していく必要がある。</p>
B 概ね計画どおりの成果が得られた	
C 成果が得られた事業が多かった	
D 成果が得られた事業は少なかった	
E 成果は得られなかった	

施策⑨ 文化による地域の活性化

施策ごとの事業の成果

(1) 市民の文化交流の推進

ア 地域で行う祭り等の文化活動の支援

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
区・町内会等活動支援事業 【市民活動推進課】	区・町内会等の自主的・主体的に行う活動の推進を図るために助成金を交付	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金交付:251団体、82,621世帯(前年度比2団体増、554世帯減) ・町内会加入率 61.3%(前年度比1.0%減) ・自主的・主体的な活動(盆踊り大会、秋祭りほか) 	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金交付:252団体、81,289世帯(前年度比1団体増、1,332世帯減) 町内会加入率 59.6%(前年度比1.7%減) ・自主的・主体的な活動(盆踊り大会、秋祭りほか) 	継続して区・町内会等の事業活動に対し、支援を行うことができた。	B

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
郷土芸能保存 【文化財課】 《再掲》	郷土芸能の保存団体の活動を支援する補助金の交付、他機関の助成情報の提供	・郷土芸能保存団体会員数 1,166人 ・補助交付 28団体 保存伝承事業27件、用具修理・購入補助8件	・郷土芸能保存団体会員数 1,209人(前年度比43人増) ・補助交付 30団体 保存伝承事業29件、用具修理・購入補助12件	郷土芸能保存伝承のための活動や用具の修理・購入に補助を行い、他機関の助成情報の提供等保存団体の活動を支援することができた。	A 高齢化が進む中で、郷土芸能団体会員数を増やすことができしており、大きな成果があったと考えている。

イ 地域に身近な会場での鑑賞・交流機会の提供

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
あ〜とふるマイタウン(芸術家等派遣事業) 【文化・生涯学習課】 《再掲》	書、伝統芸能に関する芸術家を公民館や学校等の身近な施設に派遣 ※音楽分野は、令和元年度より文化財団に移管し、「かすがいどこでもアート・ドア」事業で実施。	実施プログラム9、実施回数21回(前年度比2回減) ＜内訳＞ 音楽:4プログラム12回 書(篆刻を含む):3プログラム3回 伝統芸能(落語・日本舞踊):2プログラム6回	実施プログラム5、実施回数12回(前年度比9回減) ＜内訳＞ 書(篆刻を含む):3プログラム6回(前年度比3回増) 伝統芸能(落語・日本舞踊):2プログラム6回(増減なし)	保育園や小学校、地区社会福祉協議会など26団体から応募があり、市民に鑑賞・体験の機会を提供することができた。 書を体験した園児から「もっと書きたい」との声があがっていた。	B 音楽分野移管は、事業効果を上げるための方策であり、妥当な判断と考えている。
かすがいどこでもアート・ドア(アウトリーチ事業) 【かすがい市民文化財団】 《再掲》	学校や保育園、福祉施設などにアーティストを派遣し、特別授業やコンサートを実施 ※「あ〜とふるマイタウン事業」のうち、音楽分野について、令和元年度より市より移管を受けた。	派遣アーティスト5名、実施回数12回(前年度比2回減) ＜内訳＞ 俳優・演出家3回、文芸(歌人)3回、美術家4回、舞踊(ダンサー)1回、音楽(ギター)1回	派遣アーティスト7組19名、実施回数15回(前年度比3回増) ＜内訳＞ 音楽(①三味線2回、②サクソフォン・打楽器3回、③フルート・オーボエ・ピアノ2回、④クラリネット・サクソフォン・ピアノ2回、⑤マリンバ・パーカッション・ピアノ2回、⑥ギター2回)、ダンス2回	文化財団のミッションに基づく普及啓発事業の柱として実施し、幼児や福祉施設の利用者等に芸術を間近で感じられる機会を提供することができた。 文芸と美術分野については、アウトリーチからワークショップへ切り替えたため、地域に身近な会場での機会提供は減少した。	B 市内で活動する若手音楽家5組を派遣しており、アーティストの経験値を上げることができた点も成果と考えている。

ウ 生涯学習活動団体、外国人住民を含む市民団体等の交流の推進

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
生涯学習情報発信 【文化・生涯学習課】	公民館・ふれあいセンター等で定期的に活動する団体を認定し、生涯学習活動を支援	・生涯学習活動団体登録数 718団体、13,794人 (施設使用料の減免) ・生涯学習情報サイト 生涯学習活動団体等の情報を集約し、インターネット上で発信	・生涯学習活動団体登録数 714団体、13,673人(前年度比4団体減、121人減) (施設使用料の減免) ・生涯学習情報サイト 生涯学習活動団体等の情報を集約し、インターネット上で発信	市内各所の公共施設で活動する団体を登録団体とし、様々な団体の活動を支援することができた。	B 登録数が減少しており、対応策の検討が必要と考えている。
公民館まつり・ふれあいセンター芸能発表会 【各公民館・各ふれあいセンター】 《再掲》	公民館・ふれあいセンターで活動する同好会の成果発表会を開催	中央公民館 19団体出演・出展、延べ参加者1,572人 知多公民館 24団体出演・出展、延べ参加者1,220人 鷹来公民館 38団体出演・出展、延べ参加者2,112人 坂下公民館 33団体出演・出展、延べ参加者1,489人 東部公民館 24団体出演・出展、延べ参加者1,996人 南部ふれあいセンター 延べ参加者385人 西部ふれあいセンター 延べ参加者1,449人	中央公民館 26団体出演・出展、延べ参加者1,672人 東部公民館 23団体出演・出展、延べ参加者2,220人 南部ふれあいセンター 延べ参加者367人 西部ふれあいセンター 延べ参加者1,358人 ※知多公民館、鷹来公民館、坂下公民館では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業を中止した。	地域で活動する様々な団体に成果発表の機会を提供するとともに、各団体の交流を図ることができた。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、複数の施設で事業を実施することができなかった。	B ※開催分についての み評価

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
市民との協働促進 【市民活動支援センター】	ささえ愛センター市民 交流会議を開催 ささえ愛センターまつ りを開催	・登録団体会議 19回 登録団 体197団体(前年度比14団体 増) ・ささえ愛センターまつり 4月 15日(日) 主催 ささえ愛セン ター市民交流会議、春日井市 参加団体 63団体(外国人が 加入している団体を含む) 来 場者 2,700人(市内在住外 国人を含む)	・登録団体会議 13回 登録団 体200団体(前年度比6回減、 3団体増) ・ささえ愛センターまつり 4月 14日(日) 主催 ささえ愛セン ター市民交流会議、春日井 市 参加団体 64団体(外国 人が加入している団体を含 む) 来場者 2,700人(市内在 住外国人を含む)(前年度比1 団体増)	外国人を含む市民活動 団体相互の交流を図る機 会を提供することができ た。	B

エ 市民団体への小中学校施設の開放

事業名	概要	平成30年度の実績	令和元年度の実績	事業実施の成果	達成度 (自己評価)
学校施設開放 【文化・生涯学習課】	地域住民の生涯学習 活動やコミュニティ活 動の推進を図るため 余裕教室を地域の団 体に開放	・学校施設開放 小学校3校、5団体が利用 ・松原学習センター 8団体、2,451人が利用	・学校施設開放 小学校3校、5団体が利用 ・松原学習センター 8団体、2,161人が利用(前年 度比290人減)	余裕教室を活用し、地域 住民に開放し、生涯学習 活動やコミュニティ活動 を推進する機会を提供す ることができた。	B
学校体育施設開放 【スポーツ課】	平日や土日の夜間に、 小中学校の体育館等 を一般に開放	※スポーツ目的での利用を含む 小中学校:体育館52校、利用 者275,940人 中学校:武道場15校、利用者 27,516人	※スポーツ目的での利用を含む 小中学校:体育館52校、利用 者273,512人 中学校:武道場15校、利用者 22,252人	学校の利用のない時間 帯において体育館等を開 放し、地域住民の活動を 推進することができた。	B

評価指標に基づく実績

成果指標	現状値	目標値		実績値	
	2016年度	2021年度	2026年度	2018年度	2019年度
生涯学習活動団体の会員数	14,868人	15,000人	15,000人	13,794人	13,673人

施策ごとの評価

事業の評価	特記事項
A 計画以上の成果が得られた	<p>地域に伝承されてきた郷土芸能等については、高齢化が進むなかで後継者が不足しているなど、社会的な課題が大きい。そういったなかで、地域の活動を支援し活性化を図ることは、地域コミュニティの醸成にもつながる意義あるものであり、大いに評価できる。</p> <p>生涯学習活動団体についても、高齢化により会員数の減少がみられる現状に対し、交流を促す取り組みなどがなされており、評価できる。</p> <p>今後は、高齢化が進むなかでこういった取り組みが有効なのか、引き続き検討していくことが望まれる。</p>
B 概ね計画どおりの成果が得られた	
C 成果が得られた事業が多かった	
D 成果が得られた事業は少なかった	
E 成果は得られなかった	

(2) プラン全体(計画期間2年目)の評価

施策ごとの評価で、「大いに評価できる」とした項目があり、また「評価できる」とした項目も多い。これらのことから、計画2年目のプラン全体の評価としては、概ね計画どおりの成果が得られていると認められる。

自己評価については、平成30年度の事業を点検・評価する中で、分かりづらい部分があったため、次年度からは「大きな成果を上げたもの」「ある程度の成果を上げたもの」を区分し、5段階評価に改めるよう要望したが、それが取り入れられ、前回より分かりやすくなったと考えている。

そうした中で、「B:実施し計画程度の成果が得られた」としたものが大部分を占めており、自己評価Aはわずかであった。Bとした事業であっても、課題がある事業が散見されたので、今後はそれらの課題を解決するための方策を検討するなど、更なる事業推進が望まれる。

一方、施策③「インターネットでの地域の文化情報の発信」など「必要がある」「今後の課題である」とした項目は、十分な事業展開ができていないと評価したものである。これらについては、施策推進のため具体的な対策を講じる必要があると考えられるため、次年度以降は更に対策を勧められたい。

その他、「文化活動団体等の活発な活動の促進」や「『書のまち春日井』の推進」、「文化財を活用した伝統文化の発信」など、「望まれる」とした項目は、現時点での事業展開に加え、更なる向上のための取り組みを検討すべきと評価したものである。これらについては昨年度指摘したとおり、1~2年で効果が上がるような対策よりも、長期的な視野で検討を重ねていくことが望まれる。特に「『書のまち春日井』の推進」については、当市の文化施策の柱であるので、より一層のPRが必要である。

また、施策ごとの成果指標については、施策①・③・⑤のアンケートによって計る項目は今回測定していない。それ以外の施策②・④・⑥~⑨については、施策⑧以外いずれも、目標に近づけていない。文化の成果を数値で判断することは難しい側面もあるが、今回参考として上げた項目も含め、目標に近づけることができるよう、今後の事業展開が望まれる。